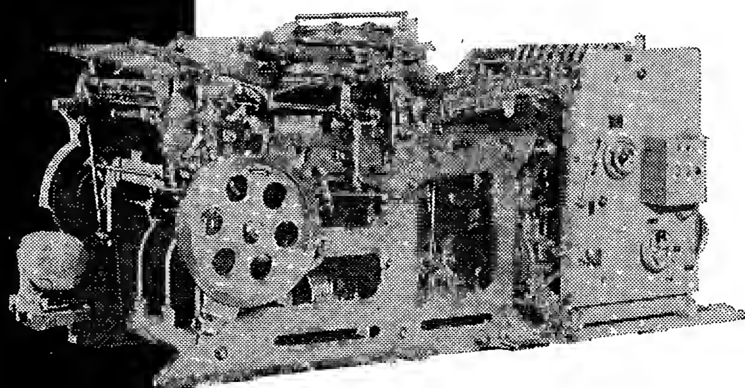
8

自信をもって推奨する!

千代田の
自動凸版印刷機(手差兼用)



仕	様
最大印刷面積	560×390m/m (1.85×1.30尺)
胴寸法	203φ×560m/m
金ローラー数	付(1本)練(1本)
ゴムローラー数	付(3本)練(2本)元(1本)
重量	1,200kg(本機) 350kg(給紙機)
所要動力	1HP(本機) ½HP(給紙機)
印刷速度	40~57枚/分
給紙方法	エヤー給紙
可能紙の種類	24.5K~150K
据付面積	1332W×2738D×1400Hm/m
紙置高	450m/m

千代田印刷機製造株式会社

本　社：東京都千代田区神田猿楽町1の4
TEL(292)2011(代)~8
横浜支社：横浜市西区高島通り1の7
TEL(045)(44)6572·7358
福岡支社：福岡市上小山町3
TEL福岡(3)3960·0153
立川工場：東京都昭島市郷地町90
TEL(0425)(2)2470·4383
九州工場：佐賀県小城郡牛津町
TEL牛津72

〔表紙写真〕 女子世界選手権大会，日本対チェコスロバキア第1戦。マルチンコバのシュート。＝チェコスロバキア通信社提供

私の言葉

〔遺稿〕藍綬褒章の光栄に浴して

故　式場隆三郎（日本協会会長）



今回はからずも「長年にわたりハンドボールの普及につとめ、その功績顕著」ということで藍綬褒章を賜ったことは、まことに身にあまる光栄と存じます。このことは私個人の名誉というより、むしろハンドボール界の名誉であり、いままでのみなさんのたゆまざる努力の結晶であると信じます。

顧れば、私がハンボール協会の会長をお引き受けしてからはや二十年の歳月が夢のごとく流れました。当時は終戦直後であり、スポーツどころか、日本人のすべてがその日の食事に困るような混乱の時代でありました。またハンドボールといってもだれも見向きもしないばかりか、スポーツ界ですら、あまり相手にされないほどの弱小協会であったと思います。そのハンドボールについて一面識もない私が会長をあえてお引き受けしたのは、誕生まもないようなたどたどしい協会であったためと、協会役員の方々の若々しい情熱に感動したからであります。

この二十年のうちに送球時代からハンドボールへ…。それも11人制から7人制へと大きく発展しました。この間、私の発案による協会旗のマークも今は昔となり、五百円を奮発して寄贈した全日本総合選手大会の優勝旗もすでに色あせるほどになりました。私は協会主催の大会には万難を排して出向きましたが、それはその機会に地域社会における知名の方々に親しく接することによって、ハンドボールの理解を深めてもらうことも私に課せられた任務の一つと考えたからであります。

このようにして、日本のハンドボールも国内はもちろんのこと、ようやく国際的にまで成長したことはご同慶にたえません。それにしましてもこの二十年のハンドボールの足跡は必ずしも平たんな道ばかりではありませんでした。卒直に申しますならば、私自身いや気がさしたこともなんどかありましたが、いまとなってはなつかしい思い出であります。そして一歩一踏み固めながら、山の頂上が見える現在のところまでよくぞ上ってきたものとわれながら驚いています。

注＝式場会長は11月21日順天堂病院で死去されました。謹しんでごめい福を祈ります。〔編集部〕



第3回女子7人制ハンドボール世界選手権大会

日本、ポーランド破り7位

ソ連棄権 日本、幸運な準決勝リーグ進出

11月7日～13日・西ドイツ

ソ連の棄権で準決勝へ進出

第3回女子7人制ハンドボール世界選手権大会2回戦、日本対チェコスロバキア戦は10月24日(第1戦)、26日(第2戦)の2日間、プラハ市のスパルタ体育館で行なわた。第1戦で日本は鈴木が4点、早川、宇井が各2点、笠原1点をあげて健闘したが、惜しくも17―9で敗れた。第2戦も宇井、久連松、鈴木、永井、黒川が善戦したが、17―5で準決勝進出の夢は破れた。

ところが準決勝リーグのA組から出場が決まっていたソ連が11月3日突如棄権を申し入れたため、国際ハンドボール連盟(IHF)は第一候補にオランダ、第二候補に日本を推薦した。オランダはいまからチームを編成するのはむずかしいという理由で辞退し、第二候補の日本が準決勝リーグに出場することになった。

この報に、大崎電気工業株式会社社長の渡辺和美氏(東京都ハンドボール協会長)は急ぎ5日夜のルフトハンザ航空機で西ドイツに向かった。

(バーゼル(スイス)3日ロイター=共同) IHF(国際ハンドボール連盟)は、7日から13日まで西独で開かれる女子7人制世界ハンドボール選手権大会にソ連の代わりとして日本を出場させると3日発表した。IHFはさきに日本、オランダのうち1チームをソ連の代わりに参加させることを決めていたが、オランダはチーム編成など準備ができないため、日本に決まった。

なおソ連は西ベルリンでの対西独戦の試合地変更を申し入れていたが、受け入れられないため不参加な表明したため、この処置がとられた。

ソ連、西ベルリンの試合を拒否

(バーゼル(スイス)3日AP=共同) 国際ハンドボール連盟は3日、西独で7日から13日まで開かれる女子7人制世界ハンドボール選手権大会にソ連の代わりとして日本かオランダを参加させることを決定した。同連盟役員によると、この決定はソ連が西ベルリンでの試合を拒否し大会不参加の態度を取ったためである。ソ連はこの選手権のうち、とくに7日ベルリンで行なわれる西独対ソ連、ユーゴ対デンマーク戦に強く反対し、試合場所を西ベルリンから西ドイツ国内で開くよう要求した。西独ハンドボール協会はこの要求にたいし、国際オリンピック委員会が『スポーツに関する限り西ベルリンは西独の一部とみなす』と決めていることを指摘してこれを拒否した。

日本女子チームはさきにチェコで行なわれた同大会の予選に出場、チェコに2敗して出場権を失っていた。(以上11月4日付けの新聞から)

(カット写真は日本対チェコ第1戦。シフェロバのシュート)

鈴木、4点あげる
くずれた日本守備陣

第1戦

▽第1戦（10月24日午後8時、プラハ・スパルタ体育館）
「レフェリー」ケシェテー（ハンガリー）
「スローオフ」チェコ
チェコスロバキア 17（9―4 / 8―4）9 日本

〔評〕10月21日にプラハに到着したので、すぐチェコスロバキア協会に「われわれ日本チームはチェコスロバキアへ勉強にきた。したがってチェコスロバキア・ナショナル・チームの練習を1時間でいいから見せてほしい」と申し入れた。この申し入れは前後5回、しかしチェコ側は応じてくれなかった。逆にチェコ側はあらゆる手段をとって日本チームの練習を見学し、しきりにメモをとる。男子ナショナル・チームの選手や、地元の新聞記者が日本チームにつきっきりでメモしていた。これが国際試合というものだろう。

得	日本		チェコ	得
0	古谷	GK	ヘルゾコバ	0
0	川崎	GK		
2	宇井	FP	ベッコバ	2
0	久連松	FP	シフェロバ	1
1	笠原	FP	ケルネロバ	4
0	黒川	FP	コシーコバ	0
2	早川	FP	チフラニチョバ	4
4	鈴木	FP	チェルノホルスカ	2
0	永井	FP	マルチンコバ	1
0	新保	FP	マリノバ	1
0	加藤	FP	ヤネチコバ	0
0	高山	FP	コソリノバ	2
9	(2)	7MT	(1)	17

▽反則退場者 両チームなし

チェコはスローオフ後の5秒にエースのケルネロバが鈴木のマークをはずして正面から決めて先取点をあげた。ケルネロバは180センチで男と全く同じ動きをし、しかも左利きの選手。日本はすぐ追いかけて20秒にきれいなフォーメーションから早川が右45度から右下にシュート。これが見事に決まって1―1。このあと激しい攻防戦を展開。2分30秒ベッコバがうまいポストプレーを決めて2―1。続いて3分40秒にマルチンコバが左サイドから近めの上コーナーぎりぎりにゲットして3―1。4分40秒鈴木がきれいなフェイント・プレー、チェコのディフェンスをゆさぶり、中央から左下へシュート。スコアは3―2とチェコが1点リードしている。

しかしこのあたりから日本のディフェンスがくずれ、同時に攻撃も精彩を欠いてきた。7分40秒にチフラニチョバ、10分にベッコバ、11分30秒、13分20秒にケルネロバ、14分30秒にシフェロバーに連続得点されて9―2と一気に引き離された。日本も徐々に立ち直りをみせ、16分30秒に鈴木が決め、前半のタイムアップ寸前に宇井が7MTを決めて9―4とした。

後半開始直後に笠原が好シュートを放ったが、チェコGKのファイン・プレーにはばまれた。逆に50秒チフラニチョバに得点されて10―4。日本も必死に追いかけ3分40秒に鈴木、5分20秒に宇井(7MT)、6分30秒にすばらしい速攻をみせ、笠原がなだれ込んで10―7と迫った。しかし中盤でまたもコンビがくずれて8分30秒チフラニチョバ、8分40秒チェルノホルスカ、10分30秒マリノバ、13分30秒ケルネロバ、16分50秒コソリノバに得点されて16―7と9点差。日本は6分30秒から約11分ノーゴール。やっと17分30秒に鈴木、18分30秒に早川が得点したが、19分20秒コソリノバがゲットして17―9。日本は第1戦を失った。
〔評は高嶋団長〕

日本女子チームの成績（▽印は分け）

期日	勝敗	スコア	チーム	場所	大会名
10.24	●	9—17	チェコ	プラハ	世界選手権
26	●	5—17	〃	〃	〃
11. 7	●	7—15	西ドイツ	西ベルリン	〃
9	●	9—10	デンマーク	ハノーバー	〃
11	●	5—9	ユーゴ	ボッフム	〃
13	○	6—5	ポーランド	ドルトムント	〃
10.28	○	15—12	リトビノフ	メジロビ	チェコ親善試合
28	○	21—4	ロコモチワ	〃	〃
31	○	16—8	トレンチーヌ	ブラチスラバ	〃
31	○	16—9	フロホベッツ	〃	〃
11. 1	○	9—7	ニトラ	ニトラ	〃
1	○	16—7	ルジアンスキー	〃	〃
2	○	14—8	ニトラ	〃	〃
4	○	33—4	アルマトルカ	ウスチラベ	〃
14	○	12—8	西ドイツ・ナショナル	ブッペタール	西ドイツ 〃
16	○	14—4	ブレーメン	ブレーメン	〃
18	△	9—9	ハンブルグ	ハンブルグ	〃
20	○	16—6	フランクフルト	フランクフルト	〃
23	○	17—13	フランスナショナル	パリ	フランス 〃

チェコ	シュート	得点	率
第1戦	27	17	.630
第2戦	24	17	.708
計	51	34	.667

日本	シュート	得点	率
第1戦	28	9	.321
第2戦	25	5	.200
計	53	14	.264

単発な動きで敗れる

敗因は体力、経験差

第2戦

▽第2戦（10月26日午後7時30分、プラハ・スパルタ体育館）「レフェリー」ススロフ（ソ連）「スローオフ」日本

チェコスロバキア 17（10‐4 7‐1）5 日本

得	日本		チェコ	得
0	古谷	GK	ヘルゾコバ	0
0	川崎	GK		
1	宇井	FP	ベッコバ	2
1	久連松	FP	シフェロバ	3
0	笠原	FP	ケルネロバ	3
1	黒川	FP	コソリノバ	0
0	早川	FP	コシーコバ	3
1	鈴木	FP	チフラニチョバ	2
1	永井	FP	チェルノホルスカ	2
0	新保	FP	マルチンコバ	1
0	加藤	FP	マリノバ	1
0	高山	FP	パロバ	0
5（1）7MT			（4）	17

▽反則退場者　日本＝笠原、チェコ＝マリノバ、コソリノバ

〔評〕　スタンドにはチェコ駐在の徳永大使夫妻の顔も見える。スローオフと同時に日本のディフェンスが非常によいことがわかる。50秒に久連松のシュートがきれいに右下に決まって日本が先行。スタンドはやんやの拍手。日本のディフェンスがよいので、4分間チェコはシュートなし。4分になって左利きのベッコバがポストプレーを決めて1‐1。ここで日本の動きが急に止まる。どうしたのか全くわからない。動きが単発になってシュートに結びつかない。その間にチェコは5分30秒、7分にチフラニチョバが連続得点し、3‐2として主導権を握る。前半早川、新保、笠原などがハッとするようなシュートを放ったが、どうも得点に結びつかない。結局日本は前半50秒の1点のみに終わる。

後半にはいっても日本は依然として得点できない。7分やっと永井が右上に決めて2点目をあげた。だが速攻が出ない。そこでセットを組んだが得点差を気にしてか、どうも単発になり、せっかくのシュートが得点に結びつかない。全体としてシュート数も少なく、いいシュートもあるが、ゴールポストに当たる不運などもあって涙をのんだ。結局は体力、経験差というのかもしれない。東京での強化合宿のときの1/3程度の力しか出ないような気がする。このへんを解決するのが今後の課題と考えられる。選手たちは気分的に上がっているわけではなく、むしろ「やってやろう」という意気込みでいる。いずれにしても念願の準決勝リーグ進出は成らなかった。これからは親善試合を通じて日本のレベルアップに努力したい。

準決勝リーグ

▽第1日（11月7日）

（A組）＝西ベルリン市

西ドイツ 15（8‐1 7‐6）7 日本

宇井4点、黒川1点、早川1点、鈴木1点

ユーゴ　11‐6　デンマーク

（B組）＝オヘンブルグ市

ハンガリー　7‐4　チェコ

ルーマニア　4‐4　ポーランド

（引き分け）

▽第2日（11月9日）

（A組）＝ハノーバー市

デンマーク 10（5‐4 5‐5）9 日本

早川3点、鈴木3点、宇井2点、永井1点

ユーゴ　8‐4　西ドイツ

（B組）＝フライブルグ市

チェコ　15‐7　ポーランド

ハンガリー　9‐6　ルーマニア

▽第3日（11月11日）

（A組）＝ボッフム市

ユーゴ 9（5‐3 4‐2）5 日本

早川3点、鈴木1点、宇井1点

西ドイツ　7‐5　デンマーク

（B組）＝ルドビグスハーヘン

ハンガリー　15‐5　ポーランド

チェコ　8‐8　ルーマニア

（引き分け）

▽最終日（11月13日）

（順位決定戦）＝ドルトムント

日本7位

7‐8位決定戦

日本 6（4‐1 2‐4）5 ポーランド

早川3点、宇井1点、笠原1点、鈴木1点

5‐6位決定戦

デンマーク 10（6‐4 4‐5）9 ルーマニア

3‐4位決定戦

西ドイツ 11（3‐4 4‐3 1‐1 3‐2）10 チェコ

延長戦

1‐2位決定戦

ハンガリー 5（3‐2 2‐1）3 ユーゴ

A 組	ユ	西	デ	日	勝数	負数	分け	勝点	得点	失点
ユーゴ	×	○	○	○	3	0	0	6	28	15
西独	●	×	○	○	2	1	0	4	26	20
デンマーク	●	●	×	○	1	2	0	2	21	27
日本	●	●	●	×	0	3	0	0	21	34

B 組	ハ	チ	ル	ポ	勝数	負数	分け	勝点	得点	失点
ハンガリー	×	○	○	○	3	0	0	6	31	15
チェコ	●	×	△	○	1	1	1	3	27	22
ルーマニア	●	△	×	△	0	1	2	2	18	21
ポーランド	●	●	△	×	0	2	1	1	16	37

12月5日に帰国

日本女子チームはチェコ、西ドイツ、フランスを転戦し、12月5日、アメリカ経由で帰国する。なお西ドイツに行っていた渡辺和美氏（東京都協会会長）は11月16日午後5時日航機で帰国した。



ユニとはただ一つの意味



海外スコープ・フランス（レキップ紙から）

前例のない強行日程・国際試合16

フランスハンドボール協会は4年間に登録人口を2倍にすることを決めた。さしあたっての目的として1964年登録人口20，432人を1967年には4万人にふやすために、昨年から学校、大学での教課への採用拡大を主とした普及計画を実施している。これと並行したもう一つの重点施策として新しく編成されたナショナル・チーム（ジュニア、少年、女子）を発展、強化させる具体策を固めようとペルー会長ら役員がもっか努力している。その現われとして、常務会は全国技術評議会の全面的賛成を得て、今シーズンの一連の国際試合計画を発表した。これは相当の強行スケジュールであるが、再編成された新ナショナル・チームにじゅうぶんな力だめしの機会を与えることになるものと思われる。



シルベストロ選手（フランス）

試合予定は次のとおりである。そのうちの最も重要な試合は第6回男子世界選手権大会（1967年1月）の予選試合である。フランスはヨーロッパ予選のEグループに属し、ハンガリー、スペインと2回戦方式で対戦する。上位2チーム内にはいらなければ1967年1月スウェーデンで行なわれる本大会に参加できない。ペルー会長もリカール技術評議会議長も、この強行スケジュールがかなり危険なものであることをよく承知している。しかし将来、長期に安定したチーム力を養成するためには、この危険を克服しなければならないとしている。

合計16試合のうち、ナショナル・Aチームが9、Bチームが3、女子チームが3、ジュニアチームが1である。

▽11月14日　スイスB対フランスB（チューリッヒ市）
▽11月23日　フランス女子対日本女子（パリ・クリシー体育館）
▽11月28日　第6回男子7人制世界選手権大会予選　スペイン対フランス（マドリード市）
▽12月11日　西ドイツ対フランス（マウグスブルグ市＝西ドイツ）
▽12月19日　ポーランド対フランス（ワルシャワ市＝ポーランド）
▽12月31日　西ベルリンでの国際大会に参加
▽1月23日　第6回男子7人制世界選手権大会予選　フランス対ハンガリー（ナント市＝フランス）
▽1月30日　オランダ女子対フランス女子（ラヘイイ市＝オランダ）
▽2月6日　フランス対ソ連（パリ・スポーツパレス）
▽2月6日　ルクセンブルグ対フランスB（ルクセンブルグ市）
▽2月6日　フランス対西ドイツ（ジュニア）（場所未定）
▽2月12日　第6回男子7人制世界選手権大会予選リターンマッチ　フランス対スペイン（ボルドー市＝フランス）
▽2月20日　フランス女子対ハンガリー女子（場所未定）
▽3月19日　第6回男子7人制世界選手権大会予選リターンマッチ　ハンガリー対フランス（ブダペスト市）
▽4月14日　アイスランド対フランス（レイクジヤビック市＝アイスランド）
▽4月23日　西ドイツB対フランスB（場所未定）

フランス選手権大会

国際ハンドボール連盟（IHF）が採用した選手権大会方式にしたがい、フランス協会も今シーズンから全国選手権大会に新しい方式を採用した。全国を3ブロック（南部、中部、北部）に分け、各ブロックで8チームずつがリターンマッチ方式でリーグ戦を行なう。試合は10月3日から始められ、自分のチーム所在地と相手チーム所在地で1試合ずつ2試合方式。来年の3月13日まで日曜ごとに行なわれる。その結果、各ブロックの上位2チームが準決勝リーグへ出場資格をえる。準決勝リーグは3チームずつの2グループで行なわれる。準決勝リーグの各グループの同順位同士で最終順位決定戦を行なう。

今シーズンのブロック別全国大会出場チームは次のとおりである。この下に優秀チームリーグ、ジュニアリーグ、女子チームリーグなどがある。

南部ブロック

スタド・マルセイユ、F・C・ソショー、C・S・L・ディジョン、A・S・C・EMリヨン、A・Sミュルルーズ、A・S・カルイール、C・S・H・T・マルセーユ、ビゾンタン・ハンドボールクラブ

中部ブロック

パリ・ポリス、ステラ・スポーツ・サンモール、パリUC、ボルドーEC、ナントEC、ジロダン・ボルドー、ナント・ハンドボールクラブ、ASPTT・エブリュー

北部ブロック

US・イブリー、USB・ロンジー、ASC・ウーエスト、リールUC、ES・コロンブス、FC・ミュールーズ、CSMP・ケビリー、U・アゴンダージュ

（注）チーム名中UC、EC、Uとあるのは会社チーム。ES、ASとあるのは学校チームと思われる。（翻訳＝境井秀三）

第20回国民体育大会ハンドボール競技

田村紡、大洋破り初優勝（一般女子）

一般男子は大崎電気が5連勝

第20回国体ハンドボール競技は10月25日から5日間、岐阜県高山市の中山球技場に5部門72チームが参加して開かれた。連日好天に恵まれたうえ、地元勢の活躍もあってコートサイドは多くの観客に囲まれ、盛り上がったムードのうち試合が進められた。その結果、一般男子は大崎電気（埼玉）、一般女子は田村紡（三重）、教員は福岡教員ク、高校男子は桜台（愛知）、高校女子は菊池農（熊本）がそれぞれ優勝した。総合得点では岐阜県、女子総合は熊本県が優勝した。

総合は岐阜が初優勝

桜台、圧倒的な強さ

高校男子

▼高校男子1回戦

氷見（富山）16（9－5 7－9）14 佐野工（大阪）

下関中央工（山口）17（9－1 8－6）7 熊本市商（熊本）

▽同準々決勝

桜台（愛知）14（11－6 3－1）7 氷見

〔評〕桜台は乱調気味だったが、要所要所を締めて少しもあぶなげなかった。氷見も一歩もひかぬ健闘をみせたが、両チームともエキサイトのあまり、粗暴なプレーが目だったのは感心できない。（奥村）

麻生（茨城）16（5－7 11－2）9 室蘭商（北海道）

〔評〕リードされた麻生は後半よく走り、見事な速攻から連続ゲットして逆転勝ちした。室蘭は後半麻生の早いつぶしにあって動きを封じられたのが敗因。（中沢）

加納（岐阜）16（8－4 8－4）8 古川工（宮城）

〔評〕加納は決してよい出来ではなかったが、各選手が特徴を生かして攻め勝った。古川工はGK野口の好守が光った（奥村）

下関中央工 13（4－2 9－5）7 新居浜工（愛媛）

〔評〕力は互角だったが、先制した下関が最後まで試合の主導権を離さず押し切った。両校とも攻撃にスピードはあったが、相手陣内にはいると動きが単調になる。サイド攻撃にくふうがほしい。

（中沢）

麻生善戦

▽同準決勝

桜台 25（16－5 9－8）13 麻生

得	【麻生】		【桜台】	得
0	高橋	GK	杉山	0
3	永作	FP	高鍬	6
1	今井	FP	飼沼	1
1	山本	FP	高橋実	1
5	大川	FP	金森	3
2	中村	FP	浅野	0
1	阿部	FP	日下	5
0	立花	FP	大矢	2
0	鈴木	FP	小島	7
0	青木	FP	高橋公	0
13	（1）	7MT	（2）	25

〔評〕桜台はマイペースで試合を進め、前半で勝負をつけた。麻生が大差にもかかわらず、堅実なプレーをみせたのは好感がもてた。（大塚滋治）

下関中央工勝つ

下関中央工 20（7－4 13－8）12 加納

得	【下関】		【加納】	得
0	高倉	GK	和田	0
2	奥村	FP	林	1
7	吉田	FP	本田	1
0	五十嵐	FP	会津	0
1	吉村	FP	近藤	5
4	磯谷	FP	大栗	1
5	稗田	FP	杉山	2
0	西生	FP	角谷	2
1	梶山	FP	近藤	0
0	穐吉	FP	安田	0
20	（5）	7MT	（0）	12

〔評〕長身者をそろえた下関は、豪快な攻撃で試合を有利に進めた。加納は攻撃が中央に片寄り、しかも再三のチャンスを下関GK高倉の美技にあってつぶした。加納は後半1点差にまで追い上げたがその後再び乱れて、試合の主導権を奪うまでにはいたらなかった。（安藤純光）

加納3位

▽同3位決定戦

加納 17（7－3 10－5）8 麻生

〔評〕 両チームとも動きが鈍く、内容のない凡戦。加納は地元の声援にこたえようと麻生の守備陣が後退気味なのをつき、ロングシュートを多用して得点、見事3位を獲得した。（浅野）

▽同決勝

桜　台 18（8・10－8 3）11 下関中央工

〔評〕 桜台の攻守は抜群。とくに攻から守、守から攻への切り替えの早さは見事なもの。桜台の優勝は2年連続9回目、愛知の優勝は実に10回目である。なお桜台はインターハイと合わせ、今年の高校王座についた。（大塚）

	【桜台】	得	【下関】	得
GK	杉山	0	高倉	0
FP	高鍬	5	奥村	2
	飼沼	0	吉田	2
	高橋実	3	五十嵐	0
	金森	0	吉村	2
	浅野	1	磯谷	1
	日下	3	稗田	4
	高橋公	0	西生	0
	大矢	3	梶山	0
	小島	3	穐吉	0

11（2）7MT（1）18

静岡城北、3位に終わる

高校女子

▼高校女子1回戦

室　蘭　商（北海道）13（5－3 4－6 …… 2－2 2－2 抽選勝）13 枚　方（大阪）

栃　木　女（栃木）10（4－6 2－1）3 新居浜西（愛媛）

▽同準々決勝

加　納（岐阜）9（5－4 0－3）3 有　磯（富山）

〔評〕 有磯は飯久保にたよりすぎた感じで、攻撃の変化に乏しかった。これに対して加納は、ゴール前での動きが多彩でシュートも正確だった。攻撃力の差がスコアに現われた試合。（山田計）

静岡城北（静岡）10（5－5 3－1）4 室　蘭　商

〔評〕 先手は室蘭が取ったが、城北は小林の活躍などであっさり逆転した。城北は好シュートがポストに当たったり、不運な場面の多かったが、インターハイ優勝の自信は大きく、あせらずにじっくり攻めたあたりは貫録だった。（渋谷）

涌　谷（宮城）6（4－2 2－2）4 山陽女（広島）

〔評〕 力は互角だったが、山陽はシュートが粗雑で自らチャンスをつぶしていた。涌谷は追われながらも、前半の優位をよく保って山陽を振り切った。両校ともディフェンスが荒いのは感心できない。（渋谷）

菊　池　農（熊本）5（3－2 0－1）1 栃　木　女

〔評〕 当たりの強いディフェンスに両校ともなかなかチャンスがつかめなかった。その後菊池はポストプレーと個人の突進力を生かした二段戦法で、前半に点差を開いて押し切った。栃木はゴール前の動きに鋭さがなく、わずかに後半金子のゲットでシャットアウトを免かれた。（山田計）

▽同準決勝

菊　池　農 8（6－2 1－2）3 涌　谷

	【涌谷】	得	【菊池】	得
GK	板垣	0	有働	0
FP	門前	2	早川	0
	大場	0	垂水	1
	寺島	0	青木	3
	斎藤	0	松野	1
	榎	1	渡辺	2
	高橋	0	愛垣	0
	大橋	0	東	1
	柴田	0	和田	0
	庄子	0	谷口	0

8（0）7MT（0）3

〔評〕 涌谷のシュートは単調で、しかもゴール前での動きが重かった。このため菊池の堅いディフェンスを破ることができず、勝機は全くなかったといっていい。菊池も好調とはいえず、攻撃は単調だった。多角的なシュートの習得が望まれよう。（徳永）

加納の健闘光る

加　納 6（4－3 2－2）5 静岡城北

〔評〕 優勝候補の一番手静岡城北が敗れた。国体での2連勝はやはりむずかしい。シュートミスが多く、明らかに不調といえた。なんとか自分のペースをつかもうと

	【城北】	得	【加納】	得
GK	山田い	0	加藤	0
FP	小林	0	垣見	0
	堀	1	高田	1
	太田	3	賀島	0
	黒柳	0	大谷	0
	山田和	1	長谷川	2
	久保田	0	伏屋	1
	石上	0	小栗	2
	斎藤	0	後藤	0
	鈴木	0	高橋	0

6（0）7MT（2）5

あせればあせるほど、逆の目が出てしまったようだ。インターハイでみせた粘りも、わずかに7MTで点差を詰めるだけに終わった。
　加納は追い込まれた場面もあったが、試合の主導権を離さず大敵を倒した。（大塚）

▽同3位決定戦

静岡城北 12（6－6 6－4）9 涌　谷

〔評〕 順当な結果、涌谷はゴール前の連係プレーにひとくふうほしい。（奥村）

▽同決勝

菊　池　農 8（4－4 4－3）7 加　納

	【加納】	得	【菊池】	得
GK	加藤	0	有働	0
FP	垣見	0	早川	0
	高田	3	垂水	5
	賀島	0	青木	0
	大谷	0	松野	0
	長谷川	4	渡辺	2
	伏屋	0	愛垣	0
	小栗	0	東	1
	後藤	0	和田	0
	高橋	0	谷口	0

8（0）7MT（1）7

〔評〕 リードされていた加納は後半盛り返し決勝戦らしく試合となった。菊池は10分すぎ垂水、東のゲットで再びペースを握り、この2点が〃優勝〃につながった。加納はゴール前でのパスミス、キャッチミスが目立ち、チャンスを自らつぶしていたのは惜しかった。



高校男子の試合

菊池の優勝は3年ぶり2回目。熊本代表の優勝は3年ぶり、4回目である。今夏のインターハイで力において城北（静岡）にまさるとも劣らないといわれていた菊池だけに、この優勝はいっそううれしいものであったろう。（金沢）



一般男子の試合

桜丘会健在、安積クに大勝

一般男子

▼一般男子1回戦

高松一高OB（香川） 32（21−7、11−6）13 丸善石油（和歌山）
本田技研（三重） 25（15−8、10−7）15 熊本ク（熊本）
氷見ク（富山） 20（11−9、9−10）19 菊商会（広島）
奈良ク（奈良） 36（19−13、17−9）22 自衛隊勝田（茨城）
東北学院大OB会（宮城） 20（12−7、8−5）12 足利球友会（栃木）
富士レジンク（兵庫） 12（9−5、3−6）11 函館サンダーク（北海道）
全神奈川（神奈川） 28（14−9、14−8）17 徳山ク（山口）
京都ク（京都） 22（11−8、11−11）19 塩山ク（山梨）
岡野バルブ製造（福岡） 16（10−6、6−8）14 清商ク（静岡）
千代田印刷機製造（東京） 24（13−8、11−5）13 北農ク（長野）
住友化学（愛媛） 17（10−4、7−5）9 盛岡商友会（岩手）
宗形製作所（大阪） 24（13−6、11−3）9 大曲ク（秋田）
桜丘会（愛知） 41（23−4、18−5）9 安積ク（福島）
常盤工業（岐阜） 34（14−6、20−5）11 鹿児島ク（鹿児島）

〔評〕大きな番狂わせはなかった。市原（元大崎電気）ら広島商大OBを主力とした新顔の菊商会は、チームプレーに一日の長のある氷見クのまとまりに屈した。実業団勢はさすがに練習量豊富なところをみせ、丸善石油が姿を消しただけだった。斜陽といわれるクラブ勢は、桜丘会がひさびさに豪快なプレーで大勝。敗れはしたが、清商クの意地のあるところを示したのもよかった。（杉山茂）

▽同2回戦

京都ク 21（9−11、12−8）19 岡野バルブ製造
富士レジンク 20（12−10、8−8）18 住友化学
桜丘会 20（4−10、16−8）18 高松一高OB
常盤工業 34（21−9、13−7）16 奈良ク
東北学院大OB会 15（8−6、7−4）10 全新潟（新潟）
千代田印刷機製造 14（5−3、9−4）7 全神奈川
宗形製作所 19（10−7、9−6）13 氷見ク
大崎電気（埼玉） 33（15−9、18−8）17 本田技研

○……名門京都クが老巧な試合運びで岡野バルブを破った。岡野は速攻にさえがなく、京都のディフェンスを突破できなかったのが敗因。高松一高OBは後半スタミナをなくした桜丘会を追いかけたが、前半の大差が痛く逆転できなかった。前回2位の全新潟は低調で完敗、全神奈川も期待に反する試合ぶりだった。王者大崎電気に対する本田技研の食い下がりも注目された。大会ごとに成長をみる本田技研の今後は楽しみだ。（杉山茂）

千代田印刷機快勝

▽同準々決勝

大崎電気 29（14−8、15−4）12 富士レジンク

得	【大崎】		【富士】	得
0	福本	GK	市野瀬	0
0	田口	FP	横野	1
2	小谷内	FP	前沢	2
6	北村	FP	竹尾	0
5	金田	FP	小森	5
3	宮原藤	FP	長浜	0
5	竹野	FP	狩山	0
5	井上	FP	坪内	0
1	坂野	FP	西本	0
2	餅原	FP	守本	4

29（2）7MT（5）12

〔評〕立ち上がりは互角だったが、時間の経過とともに大崎電気の地力がものをいい、初出場の富士を一方的に破った。大崎電気の攻防両面にみせた出足のよさはさすが。ベテランをそろえた富士も手のほどこしようがなかった。（鈴木四郎）

千代田印刷機製造 23（12−10、11−5）15 桜丘会

〔評〕千代田が多彩な攻撃から確実にシュートを決めていたのにたいし、桜丘会のシュートは高めに浮き、この巧拙がスコアになった。後半、桜丘会は2点差まで追い上げたが、前半の不調が響き、結局は練習量の差が現われた。（財前久範）

点	【千代】		【桜丘】	得
0	村田	GK	渡辺	0
10	青木	PF	小川	5
1	木田繁	PF	近藤	0
0	鈴木	PF	西尾	2
2	木田雅	PF	池田	0
4	佐久間	PF	新	3
5	安藤	PF	川島	0
1	宮永	PF	森田	1
0	佐藤	PF	山田	4
			尾之内	0

23（2）7MT（1）15

宗形製作所 31（16−9、15−3）12 京都ク

得	【宗形】		【京都】	得
0	鷹見	GK	崎島	0
0	坂本	FP	谷内	1
4	多久	FP	小磯	1
0	中村	FP	藤林	3
4	久保	FP	野崎	2
5	五味	FP	井ノ下	3
9	越智	FP	川畑	2
3	栗沢	FP	辰巳	0
1	中林	FP	青山	0
5	辻	FP	山田	0

31（2）7MT（3）12

〔評〕宗形は京都のパスワークの乱れをついて速攻をかけ、前半大きくリード。京都は後半になってようやく攻撃に調子が整い反撃したがおそかった。近畿同士でお互いに手の中を知り尽くしているようだったが、立ち上がりの好不調で意外の大差となった。（浅野克彦）

常盤工業 12（7−1、5−5）6 東北学院大OB会

〔評〕前半、常盤はコンビネーションプレー、東北は個人の突進力と対照的な攻撃で互角だった。後半になって常盤は疲れのみえた東京の攻撃をカット、きれいな速

攻を展開し、地元の声援にこたえた。（財前）

得	【常盤】		【東北】	得
0	渡辺	GK	斎藤	0
2	永富		宮崎	0
0	都築		菅井	0
4	片岡		高橋	2
2	今井		片山	2
1	早見	FP	小林	0
0	赤堀		斎	0
1	峰岸		村上	0
0	鳥村		相沢	2
2	高橋			
12	（1）	7MT	（2）	6

千代田及ばず

▽同準決勝

大崎電気 29（15―5、14―5）10 千代田印刷機製造

〔評〕大崎は井上、餅原、北村が多彩な攻撃をみせ、相変わらずの強味をみせた。千代田は安藤の動きがさえず、ブレーキとなり、青木一人が大奮闘した。ポストプレーの研究が必要ではないか。（岡村昭二）

得	【大崎】		【千代】	得
0	福本	GK	村田	0
0	高森		青木	7
5	田口		木田繁	0
5	小谷内		鈴木	0
2	北村		木田雅	2
0	金田	FP	佐久間	1
7	宮原藤		安藤	0
5	竹野		宮永	0
0	井上		佐藤	0
5	餅原			
29	（3）	7MT	（3）	10

宗形決勝へ

宗形製作所 19（9―7、10―7）14 常盤工業

〔評〕一進一退だったが、勝負を決めたのは宗形のポストプレーに対する常盤のディフェンスの甘さだった。常盤は永富、都築が若手をうまくリード、攻撃力には見るべきものが多かっただけにこの守備のもろさは惜しまれる。（遠藤健次）

得	【宗形】		【常盤】	得
0	鷹見	GK	渡辺	0
0	坂本		永富	3
0	多久		都築	1
0	中村		片岡	3
4	久保		今井	3
0	五味	FP	早見	0
7	越智		赤堀	0
2	栗沢		峰岸	1
0	中林		鳥村	0
6	辻		高橋	3
19	（1）	7MT	（1）	14

常盤工業3位

▽同3位決定戦

常盤工業 19（7―9、12―5）14 千代田印刷機製造

〔評〕千代田の攻守は雑、一方の常盤は地元の声援に奮起。実力は互角だったが気力の差が勝負をつけた。千代田は一線防御を多用しているが、再考を要するのではないだろうか。（遠藤）

▽同決勝

大崎電気 35（19―4、16―9）19 宗形製作所

得	【宗形】		【大崎】	得
0	鷹見	GK	福本	0
5	越智		田口	1
1	久保		小谷内	9
0	中村		北村	6
2	多久		金田	4
1	栗沢	FP	宮原藤	3
3	辻		竹野	4
0	坂本		井上	3
1	五味		坂野	3
0	川辺		餅原	2
13	（1）	7MT	（1）	35

〔評〕実力差が初めから出てしまい、決勝にしては盛り上がりのない試合だった。大崎電気は走力、パスワーク、シュートと満点に近いプレーだった。実業団選手権などでたびたび顔を合わせ、相手研究がじゅうぶんなはずの宗形も、ほとんど無策にひとしいような印象しか残らなかった。大崎電気はこれで東京代表として2回、埼玉代表として3回と5年連続この大会に優勝した。大崎電気は8月の全日本総合選手権に次いで今シーズン二つ目のタイトルを握った。

式場隆三郎会長死去

11月21日午後0時30分、ガン性腹膜炎のため、東京・お茶の水順天堂病院で死去。67歳。新潟県出身、新潟医大卒。遺志により同氏の角膜はアイ・バンクへ同日午後4時すぎ寄付された。自宅は千葉県市川市国府台三ノ二四一八。

故式場会長は大正10年新潟医専卒後、新潟医大で精神病学を研究静岡脳病院長、国府台病院長を歴任したのち千葉・市川市で式場病院の経営に当たる。ことし10月、日本ハンドボール協会会長の功績で藍綬褒章を受けた。

密葬は23日午後1時から自宅で、葬儀、告別式は27日午後1時から青山葬儀所でそれぞれ行なわれた。喪主は長男聰氏（式場病院副院長）。

ソ連，世界選手権不参加の波紋

五輪開催への影響が心配

ついに“政治”が介入してしまった。これまで国家意識による対立もなければ、冷戦もないところであった。東ドイツも西ドイツも、それぞれ独立してIHF（国際ハンドボール連盟）に加盟していたし、日本が今春IHF未加盟国の中国と交流することを問い合わせたさいも、きわめて寛容な態度でその許可が申し送られてきたものだった。いかにもスポーツの世界らしい美しい交歓が世界の各地のハンドボーラーの間で綴られていた。それだけに第3回女子7人制世界選手権大会の直前になって、このような事態が突発するとは思いもよらなかった。

外電によれば、ソ連がこの選手権のうち11月7日に西ベルリンで行なわれる予定のソ連対西ドイツ、ユーゴ対デンマーク戦の試合地を西ドイツに変えるように要求したことに問題の端を発した。これにたいし、主催者であるIHFはこれを拒否した。このためソ連が不参加を決めた。

IHFの拒否の理由は「スポーツにかんするかぎり、西ベルリンとは西ドイツの一部とみなす」という国際オリンピック委員会（IOC）の見解に基いたもので、スジ道は通っている。ソ連の態度がIOC見解をも否定したということになると、この問題はハンドボール界のみにとどまらず、世界のスポーツ界に大きな波紋を投じたといってもいいだろう。

IHFが果たしてどのような処置をとるか。これは日本選手団の高嶋団長（協会理事長）や、11月5日夜急ぎ西ドイツへ飛んだ渡辺評議員（東京都協会長）の帰国を待って報告を聞かないと、現時点では予測しがたい。私のもっとも恐れるのは、ソ連がIHFを脱退するような事態になると、1972年のオリンピック大会で開催が決まり、世界ハンドボール界のせっかくそろった足なみが乱れるのではないかということだ。1972年大会の有力開催地にモスクワがあげられている。それだけに問題は一層微妙である。

なおソビエトの不参加で、本来なら7月の予選でソ連に敗れたオランダが本大会に出場すべきだが、同国がチーム編成不能のため参加できない。このためチェコでの予選に引き続き遠征中の日本が出場と決まったのは、全くの幸運というほかはない。【黒尾武】

三菱鉛筆　一回戦で敗れる

一般女子

▼一般女子1回戦

栃木女ク(栃木) 14(8—2、6—1)3 三菱鉛筆(山形)
全岡山(岡山) 19(9—1、10—5)6 函館ク(北海道)
氷見ク(富山) 8(2—1、6—3)4 愛媛ク(愛媛)
寝屋川ク(大阪) 11(5—1、6—5)6 東京重機(神奈川)

〔評〕 実業団全盛の中で、5年ぶりに登場した名門寝屋川クが東京重機を破ったのは特筆される。初登場の三菱鉛筆はパスワークが乱れ、栃木女クに大敗した。昨夏のインターハイのヒーロー田辺(栃木)が1年ぶりに元気な姿を見せ、6点をたたき出して健在を示した。(杉山)

▽同準々決勝

大洋デパート(熊本) 5(1—1、4—1)2 栃木女ク

〔評〕 大洋は速攻、栃木は遅攻と対照的、前半は互いに相手ディフェンスをくずせなかった。後半、大洋はようやく本調子となり、スピード豊かな攻撃で着実に加点した。栃木の善戦は賞される(財前)

揖斐川電気勝つ

揖斐川電気(岐阜) 14(7—1、7—3)4 全岡山

〔評〕 揖斐川はエース赤塚姉がミドルシュートをよく決め、1人で9点をあげる大活躍。(岡村)

愛知紡(愛知) 15(11—0、4—2)2 氷見ク

〔評〕 愛知紡久しぶりに豪快な速攻をみせて完勝した。氷見も最後まで健闘したが、やはりすべての面でクラブと実業団の差が現われた。(財前)

田村紡(三重) 15(9—4、6—2)6 寝屋川ク

〔評〕 田村紡の成長が目だった一戦。速攻を武器にし、セット攻撃もよく身についていた。ハンディの多い寝屋川クがここまで進出した気力はほめていい。(徳永陸繁)

▽同準決勝

大洋デパート 14(7—1、7—1)2 揖斐川電気

	【大洋】	得	【揖斐】	得
GK	山口	0	田中	0
FP	中村	5	若園	0
	西村	0	細川	0
	隈	1	渡辺	1
	射場	1	赤塚姉	1
	枝尾	5	高岡	0
	稲田	1	久保田	0
	木原	1	山田	0
	迫	0	赤塚妹	0
	中尾	0		

14 (1) 7MT (1) 2

〔交代〕 大洋GK小原

〔評〕 揖斐川の食い下がりが期待されたが、ボールをいたずらに回すだけでシュートに力強さがなかった。気力にあふれた捨て身の攻撃がほしかった。大洋は中村、枝尾がよく動き、主力3人を欠きながら(世界選手権出場)チーム力の厚みのあるところを示した。(奥村)

愛知紡、またも敗れる

田村紡 10(4—2、6—3)5 愛知紡

	【愛知】	得	【田村】	得
GK	篠崎	0	渡辺美	0
FP	小林	1	種村	1
	菲塚	0	川口	1
	伊藤	3	水谷	1
	古谷	0	小林	0
	関口	1	内藤	3
	高橋	0	渡辺好	4
	近藤	0	清水	0
	村上	0	渡辺信	0
	小野	0	信藤	0

5 (3) 7MT (1) 10

〔評〕 愛知紡は守備陣の善戦で田村紡の速攻を防ぎ、接戦となったが、攻撃力に決め手がなく敗れた。田村紡は後半5—4と追いつかれてから得意の脚力を生かして差を開いた。渡辺好の勝負強さがひときわ光った。(金沢)

▽同3位決定戦

愛知紡 12(8—3、4—3)6 揖斐川電気

〔評〕 点差のわりに活気があった。愛知紡は小林のシュートが決まる日は強い。伊藤、韮塚を加えたこのトリオは身長もあり、高橋の動きもよい。この4人が成長すれば往年の愛知紡に戻れよう。揖斐川は攻守ともにキメが荒く、凡ミスが目だった。(渋谷)

▽同決勝

田村紡 8(4—2、4—4)6 大洋デパート

	【田村】	得	【大洋】	得
GK	渡辺美	0	山口	0
FP	種村	2	中村	1
	川口	0	西村	1
	水谷	3	隈	2
	小林	0	射場	0
	内藤	1	枝尾	2
	渡辺好	1	稲田	0
	清水	1	木原	0
	渡辺信	0	迫	0
	信藤	0	中尾	0

8 (2) 7MT (2) 6

〔評〕 決勝にふさわしいファイトある試合が展開された。田村紡は激しいゆさぶりから早いフォローでチャンスをねらい、大洋は中央からのミドルミュートで攻めた。田村の動きが終始快調だったのに比べ、大洋は縦の動きがしばしば詰まり、主力を欠いたマイナスが現われたのは惜しまれる。

チャンスを確実にものにしていた田村紡の逃げ切り勝ちだったが、大洋、大崎電気(埼玉=今大会不出場)の三者による対立は、このあと12月の全日本選抜、来年2月の全日本実業団とぶつかり合うたびに白熱しそうである。(中沢)



球界パトロール

隣り合わせの魔女と魔女

国体から

○…岐阜の国体は史上初めてといわれる全期間晴天の絶好のコンディションに恵まれた。高山市は昨年全日本総合選手権を開いており、この時も地元の親切な受け入れ体制が選手たちに好評だった。今夏は県あげての国体ムードでいっそう拍車がかけられ、すばらしい印象を残したようだ。しかも連日、小中学生を中心とした大観衆がスタンドを埋め、第一日の開始式にはなんと三万近い人が詰めかけ、これには選手たちもどぎもを抜かれたようだった。最終日まで延べ七万人が観戦したといわれる。飛騨の地にスリルとスピードに富んだハンドボールのだいご味がしっかり刻みつけられたようだ。

○…高山市ではもう一つ、一般女子バレーボールが開かれた。しかも東京オリンピックのゴールドメダリストで固めて話題となった『フジクラブ』。このチームが出場するとあってハンドボール関係者は、地元のスポーツファンをそちらに吸収され

福岡クが初優勝

教員

▼教員1回戦

函館教員ク（道）22（10－9／12－9）18 香川教員ク（香川）

福岡教員ク（福岡）22（9－10／13－7）17 長野教員（長野）

▽同準々決勝

岐阜教員（岐阜）19（7－6／12－5）11 函館教員ク

〔評〕前半函館はよく反撃して接戦となった。しかし後半岐阜はセットプレーと速攻とをうまく使い分け、矢継ぎ早やにゲットして勝った。（松本）

岩手教員ク（岩手）23（10－6／13－10）16 岡山教員（岡山）

〔評〕岩手は増田を中心によくまとまり、優位に立った。岡山は後半追い駆けたが、前半に無駄なロングシュートでチャンスをした。（鈴木）

静岡県教員団 15（8－9／7－5）14 東京桜友会（東京）

〔評〕初めから一進一退、好試合となった。しかし静岡は左腕塩崎の好プレーで確実に得点。年令的な断層からまとまった動きに欠けた東京を退けた。（松本）

福岡教員ク 24（12－11／12－7）18 スワロー兵庫

〔評〕福岡はエース三友が13点、兵庫も北山が12点をたたき出したが、兵庫は北山がマークされるとたんに動きが鈍り、福岡のうまい試合運びに敗れた。兵庫は近畿予選で常勝大阪イーグルス（一昨年、昨年優勝）を破り、優勝候補の筆頭だっただけに番狂わせといえる。福岡のまとまりが目だった一戦（鈴木）

▽同準決勝

福岡教員ク 13（6－6／7－6）12 静岡県教員団

	【静岡】	得	【福岡】	得
GK	吉田	0	福田	0
FP	久保田	4	清川	5
	関	2	三友	7
	池田	0	山田	0
	塩崎	3	古野	1
	塩沢	1	篠崎	0
	川崎	2	広末	0
	村山	0	伊藤	0
	西原	0	中牟田	0
	大石	0	近藤	0

13（3）7MT（1）12

〔評〕互いに手の中を知っているためか、ゆっくりと攻め合い、迫力に欠けた試合だった。福岡は清川―三友のコンビがよく動き、静岡のディフェンスをゆさぶったのが勝因。後半エキサイトのあまりラフプレーが続いたのはまずい（松本）

岐阜教員 15（8－6／7－7）13 岩手教員ク

	【岩手】	得	【岐阜】	得
GK	佐々木	0	大平	0
FP	梅野	0	犬飼	0
	佐藤	0	森川	2
	宮野	0	石榑	4
	高田	5	豊島	2
	川守田	0	羽上田	4
	太田	0	杉本	2
	足沢	0	吉田	0
	上島	3	古宮山	1
	増田	5	高島	0

15（1）7MT（1）13

〔評〕若さとスピードにまさる岐阜は練習量もじゅうぶん、ポイントゲッターの片寄る岩手を押えた。その割りに点差が開かなかったのは岩手の粘りによるもの。セットプレーにうまさを加えれば、岩手はあなどれないチームになりそうだ。（遠藤）

▽同3位決定戦

岩手教員ク 19（9－7／2－4…3－0／5－1）12 静岡県教員団

〔評〕延長にはいってから静岡はパスミスが目だち、岩手は出足のよいカットで得点に結びつけ勝利を飾った。両チームとも試合中に調子の波があり、それが延長戦にもつれ込む原因になった（鈴木）

▽同決勝

福岡教員ク 14（6－6／8－7）13 岐阜教員

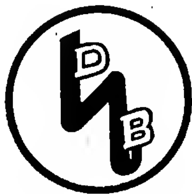
〔評〕岐阜は出足よくリードしたが、そのあとまずい攻撃を重ねるうちに福岡に追いつかれた。互角になると、ベテランをそろえた福岡が優勢となり、試合の主導権を握った。しかし岐阜は試合終了まぎわ、羽上田の強引なプレーで13―13とする粘りをみせ、延長必至と思われた。しかし福岡は29分45秒三友がリバウンドボールをうまくシュート、決勝点をあげた。

内容はともかく、おもしろかった。変化に富んだ試合となり、福岡は初優勝。九州予選いらいしり上がりに調子をあげてきたようだ。チームワークもよかった。（大塚）

	【岐阜】	得	【福岡】	得
GK	大平	0	福田	0
FP	犬飼	0	清川	4
	森川	2	三友	4
	石榑	3	山田	1
	豊島	2	古野	4
	羽上田	3	篠崎	0
	杉本	3	広末	1
	吉田	0	伊藤	0
	古宮山	0	中牟田	0
	高島	0	近藤	0

14（2）7MT（1）13

▽男女総合得点①岐阜②愛知③熊本④静岡⑤宮城・埼玉・三重・福岡＝岐阜は初優勝
▽女子総合得点①熊本②岐阜③三重④愛知・静岡⑥宮城・栃木・富山＝熊本の優勝は3年ぶり2回目



てしまうのではないかと心配したほど。しかしこの連日の大観衆にひと安心。最終日近くには「ハンドボールもたいしたものだろう」と強気な言葉も出るようになった。

○…ところで一般女子で初優勝した田村紡（三重）は、昨年の全日本総合室内いらい〝東海の魔女〟と異名をつけられているチーム。それが、魔女の本家「フジクラブ」と隣り合わせで試合するようになったのだからおもしろい。どちらも魔女ぶりを発揮して優勝を飾ったが、田村紡の連中は『一日も早く東海の魔女から世界の魔女になりたいワ』とその意気盛んなところをみせた。

○…国体の特色は、なつかしい顔ぶれがあちこちからそろうことだ。試合の前後に、旧交をあたためる風景はいかにもほほえましい。「おまえ、まだやっているのか」「おまえこそ、相変わらず好きだなァ」などという声が盛んにとび出した。あるクラブの選手が「実業団が進出してくると、こうしたなごやかさもだんだん薄れてくるのではないかナ」としみじみ語っていたのは時の流れには勝てないといった感慨が含まれているようで、なんとも寂しい響きがあった。

絶対必要なフェイントプレー・ジャンプシュート

トビリシでハンドボール男子ソ連選手権試合が始まった。この論文はソ連のハンドボールにとっての問題点を明らかにする。ソ連男子選抜チームは昨年3月チェコで開かれた第5回男子7人制世界選手権大会では5位にとどまった。それから一年半が経過したが、この期間にソ連のハンドボールは上達しただろうか?。

ソ連の最強チームが参加したスパルタキアードでは一見して楽観的な予想を持たせる結果が出た。試合方法が多彩になり技術も多様になった。第5回男子7人制世界選手権大会の試合の分析はソ連チームのこれからの準備方法を暗示し、プラハで世界の最強チームが見せた良い点を取り入れなければならないことを教えたはずである。たとえば世界チャンピオン、ルーマニアの選手は、フェイント戦法でじゅうぶん考えたプレーをするのにすぐれていた。ソ連チームがフェイント戦法でわずか8点しかシュートできなかったのに、この外見では策を弄せぬ戦法でルーマニアは世界選手権試合で27点もシュートできた。この点でソ連は進歩しただろうか?。ソ連はフェイント戦法に上達しただろうか?。いや、以前のように4—5人のプレーヤーを集中させるフェイント戦法はめったに見られない。ルーマニアのもう一つの有効な攻撃方法はどの間隔からもジャンプシュートを使うことだ。（世界選手権ではこの方法でルーマニアは26シュート、ソ連は8シュート）。もちろんソ連のプレーヤーがこのジャンプシュートを全く使っていないとはいえないが、この方法を広げることは世界のハイ・レベルの仲間入りすることになるわけだ。要するにフェイントプレーによるシュート。それとジャンプシュートが勝利への大きな要素を占めることだ。

残念ながらソ連チームがマスターしていないテクニックをここであげなければならない。そのうえ、ソ連チームの決め手（得手の手）までも失っていることも言わねばならない。以前はソ連は外国のチームに比べて強烈なアタック力を持っていた。フェイントを多用していた。しかしいまではフェイントをうまく使えるプレーヤーがほんとうに少なくなった。現在では高い身長、りっぱな体格、強烈なシュートがトレーナーをひきつけている。しかし巨人は必然的に守備側を逆に利用するといった技術でなく、任意の突撃を当てにすることになる。ひとくちにいえば解決の糸口が見出せない問題がたくさんあるのだ。これはハンドボールの発展がすでに新らしい課題を提起しているだけに問題だ。ことしソ連で行なわれた試合では、1人あるいは2人の攻撃者を1人でバックアップすると攻撃側の動作に混乱をもたらしたこと—これが第一、第二はプレーヤーが試合から離されて少数になったチームが決して不利にならないことだ。問題はどこにあるのか?。防御ゾーンと結合して1人か2人の攻撃者をバックアップすること—これが最も現代的な防御体制の方法だ。これは次のような場面がよく起こるために困難ではない。攻撃チームの2人のプレーヤーはちょうどプレーから除外された形になる。そして反対側のゴール近くでは攻撃側の4人だけが攻撃できる。そして4人は理論にしたがっていけば、6人が6人に対するよりは4人に対してアタックする方が容易だ。これは1人の防御者に守られるゾーンが広くなるので、攻撃側の問題は軽減されるのが当然だ。しかし実験はこれらの理論上の計算はすべてくつがえされる。6人が6人をうまくアタックしたところでは4人は1点もシュートできない。なぜか?。それは簡単だ。4人で攻撃をかけていく側は実際には1人のバッカーと突き当たるが、個人アタックではソ連の選手は1950年代のそれより弱くなっている。このため4人の攻撃者はうまくシュートすることはできない。

では1人にバックアップされているとき、2人の攻撃者はなにをしたらよいか?。彼らはただ立っているだけだ。コートの真ん中とフリースロー・ラインの間に立っているのだ。彼らはボールも持たずに、いたずらに走り回るのにあきたので立っているのだ。しかしまず第一に彼らを検討し、われわれのサイドラインからの攻撃者はどのようにプレーするか解明してみよう。それについて話す場合、第5回世界選手権大会でソ連のプレーヤーはサイドラインから46点も得点をあげたことは忘れてはならない。サイドラインからの得点で2位を占めたチェコも18点あげただけである。しかしラインプレーは欠点がないわけではない。いままではラインでのプレーヤーの行動はただ一つの目的のためにある。それはボールを受け、それをゴールに送ることだ。しかしこの目的がどんなに重要であれ、それはチームの技術能力を貧しくさせる。現代のラインプレーヤーはゴールさせることだけを考えてはいけない。チームプレーをすることだ。パートナーを援護して、彼をシュートするに適当なポジションに導いていくことだ。しかしこれも実験には行なわれておらず、パートナーはゴールまで1人で進んでいかなければならない。

しかしそのような守備体制を一掃する良薬がある。1人で守るプレーヤーの役目である。このプレーヤーはライン側に位置しなければならない。そしてシュートできなくても、それはたいしたことではない。そのかわりに彼はコートの中央に目的もなくいるかわりに、1人ときには2人防御者と結合してカベをつくることができる。ところで逆説的な現象だが、5人のチームが6人のそれと対等に戦う—これは数的に優位なチームの選手が自由なポジションを求めて配置するためだ。

× × × ×

海外スコープ

ソ連審判員 H・クルソフ

"女と涙"はつきもの

鷲尾武治

楽書帖

○…10月24日に日本対チェコスロバキア第1戦。時差は7時間なので25日早朝に記録が入電する。それで私は25日が運よく早番(といっても午前9時30分出勤…)。私の社(共同通信社)の外信部のテレタイプにはAP(米)、UPI(米)、ロイター(英)、タス(ソ連)の各通信社からニュースが送られてくる。その中からスポーツニュースをより分ける。山となっているスポーツニュースから「プラハ発」の電報を捜し出す。なかなか出てこない。やっと出てきたのがロイター電。(HANDBALL)(PRAGUE, OCT 24, REUTER-THE JAPANESE WOMENS HANDBALL TEAM LOST……17—9 HERE TODAY……)17—9で日本が負けた。がっかりした。このロイター電はなかなか親切で、鈴木が4点、早川2点、宇井2点、笠原1点と打電してきた。電文が多少くずれて早川が(HAYAKA)、笠原が(KASAHAR)、高嶋が(TAKASHINA)、宇井が(UIO)になっていた。それはともかく、夕刊に出るように急いで翻訳して出稿した。すぐ大崎電気に連絡し、大崎電気から国体開催中の高山市の会場に電話を入れてもらった。

○…選手団出発の10月20日、岸体育会館で壮行会。病気療養中の式場会長がわざわざ出席されて選手団を激励した。それにポルトガル・ハンドボール協会長のヘンリック・ファイスト夫妻とブランコ理事が観光旅行で来日し、折よく日本協会を訪れていたのでこの壮行会に出席。つまり式場会長の藍綬褒章受賞祝賀会、ファイスト協会長の歓迎会、選手の壮行会と一石三鳥(?)というわけ。ファイスト協会長はこの思いもかけぬ歓迎に大喜び。「式場会長の受賞祝賀会、それに世界選手権大会に出場する選手団の壮行会にお呼びいただいてほんとうにありがとう。いい思い出になりました。世界選手権で大いにがんばってください。日本とポルトガルとが仲よくやっていくことを心から希望します」とあいさつした。ヨーロッパの協会長が日本協会をおとずれるなんて、そうざらにあるものでない。

○…羽田空港はゴッタ返していた。イギリスの外務大臣が帰国するので、正服の警官でいっぱい。その中で胸に日の丸をつけたムスメさんたちは家族に激励されてエビス顔。熊本から駆けつけた北川浩先生(熊本市立高教諭)の顔を見てホッとしたのが久連松君。出発が近くなると、大崎電気の選手たちは急におとなしくなってしまった。カァーチャンの顔を見ているうちに寂しくなったのだろうか。とにかく女の子に涙はつきもの。

時評

意外に厚かった壁

女子世界選手権に思う

壁は厚かった。意外に厚かった。日本チームがチェコスロバキアに二度対戦して二度も一方的に敗れた。約一カ月にわたり、大崎電気の男子を相手に強化練習した結果がこれである。1962年の第2回大会で日本が初出場したときは問題なく敗れた。それから3年—日本のレベルはかなり上がった。スピードもある。倒れ込みシュートも、7メートルスローも、GKのボール出しも、またディフェンスも相当うまくなった。これならイケる。しかしこの3年間にヨーロッパ、とくに東欧諸国のレベルは日本以上にアップしていた。日本対チェコスロバキアの第2戦を見てもわかる。日本は前半の20分間にたった1点しか取れない。これだけを見てもチェコスロバキアのディフェンスは相当なものであることがわかる。チェコスロバキアの戦力については高嶋団長が帰国してから説明してもらうつもり。しかし現時点においては、チェコスロバキアは強敵といわざるをえない。

日本の女子は世界選手権大会で1勝もあげていない。実は残念なことである。かなりの遠征費を出しての参加。早く1勝、いや優勝してみたいものだ。これは日本の全ハンドボーラーの願いである。それにはどうしたらいいのか。これをよく考えてみるべきではないか。私はこう思う。女子は国際試合の経験が少ない。これがいちばん大きな原因だ。日本協会は来年度の国際関係事業計画案の中に西ドイツ男女チームの招待がある。(当初のチェコスロバキアチーム の来日が西ドイツに変更になったものと思う)、これをぜひ実現してほしい。女子チームは西ドイツのナショナルチームのAまたはBと指定している。そしてこの日本—西ドイツ戦で、日本はナショナルチームをぶっつけて実力を試すのがいい。日本のどの部分に弱点があるのか、すぐわかると思う。地理的条件によって女子の国際試合はいままで実現しなかった。こんどこそ実現してもらいたい。また日本女子チームは世界選手権大会ばかりでなく、シベリア経由の安い費用でソ連遠征をやるべきだと思う。ソ連でなくてもいい。中国でもいい。女子の国際試合をできるだけ多く採用すべきだ。と同時に3年後の女子世界選手権大会を目ざして、スタートを切るべきだと思う。3年計画を立ててどんどん準備してもらいたい。それには実業団各オーナーの協力を求めて推進して行く。これはなにも女子に限らず、男子にもいえることだ。1967年1月の男子世界選手権大会が迫っている。みんなで協力しよう。

(幸)=11月3日記=

× × ×

エールフランス

パリへの直行便〈北極回り〉



ビジネスでヨーロッパへ旅行されるお客さまのために、エールフランスでは〈北極回り〉にボーイング707ジェット機を就航させております。

北極回り　東京発　午後　10時30分　〈水・金〉
　　　　　パリ着　翌朝　9時5分

パリを中心として、ヨーロッパの各地にエールフランスの航空網が縦横にひろがっております。またエールフランスでは日本のお客さまのために、機上には日本人スチュワーデスを、ヨーロッパの各主要都市には21名の日本人駐在員を配置し、常にお客さまのお世話をいたしております。なお、南回りは〈月・火・木・土・日〉の午前10時30分パリへ向け就航しております。

AIR FRANCE

LE PLUS GRAND RÉSEAU DU MONDE

à Votre Service



東京都港区赤坂溜池　エールフランスビル　電話（584）1171代表　東京都千代田区日比谷　三井ビル　電話（501）6331代表
大阪市東区大川町淀屋橋　勧銀ビル　電話（202）6326代表　名古屋市中村区広井町3—88　大名古屋ビル　電話（54）　0540

もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ



――ベルギー「体育レビュー」誌から――

学校教育としての「ハンドボール入門」

ジャン・ピエブー
アンドレ・デオム


ジャン・ピエブー

リエージュ体育学校教授、教育学教授。児童教育心理研究所所長。ベルギー・ナショナルチーム監督。リエージュ・ハンドボール連盟会長。


アンドレ・デオム

リエージュ大学体育学郎卒業後リエージュ公立中学教師。ベルギー・ナショナルチーム正選手。学生連盟常務理事。

序論

7人制ハンドボールは、初めてプレーしようとする人にも簡単にできる。普通の器用さがあれば、初めての試合のときから快適な役割りを果たせる。その後、さらにそのような対戦の経験を繰り返せば、ハンドボールは思うようになる。またスピードのあるスポーツである。相当の体力を消耗する。しかしこの7人制は肉体的な力を重視し、めんどうなルール、不自然なルールを必要としない。だからだれにでもできる。通常の運動能力のある生徒が、正選手になりたいというなら、正規の練習にはいらねばならない。入門に当たって、ゲームから始めるべきか、技術から始めるべきかの問題がある。これにはその生徒の進歩程度に応じてやるべきである。たとえば語学の習得の場合、自分の考えを述べるためにはまずいくつかの単語を勉強しなければならない。

スポーツでも同じことである。ゲームを始めるのは基礎からやらなければならない。ゲームの質が向上するのは、基礎的技術を覚えることである。その技術を使って多くの戦術が使えるようになる。したがってゲームをやるまでには技術練習に相当の時間がかかる。この技術練習はご存じのとおり、少々退屈でいや気がさすものである。だがそれをやらなければ覚えない。そして基礎練習がいかに大切であるかを教えなければならない。練習は疲れるものだが、また楽しいものである。

初めてハンドボールに親しむときは、ボールをこわがらないように指導、そしてあまり激しくない練習をやるのがいい。自信を持って乱戦の中へ打って出れるようになるのは相当の技術・体力が必要。その次の段階は、ブロック技術の指導である。ゲームを通じてブロック技術の指導である。ゲームを通じてブロック技術を覚えないと、なかなか進歩しない。将来、優秀選手になるには絶対必要なことである。生徒を指導した経験ならだれでも知っているように、クラス全員に興味を持たせるということはむずかしいものである。特に新しいスポーツを導入する場合はなおさらである。この場合、得てして生徒は理由をつけてこの新しい運動を見学する。また運動するのが適当でない者も出る。これらの生徒には有効な任務を与え、その役割りを果たさせるようにすることが必要。たとえば見学者には各選手の得点記録をとらせたり、あるいはシュートのタイプ、その成否、取られたシュートにもとづき速攻反撃が行なわれた割り合い、守備に戻らなかった回数、キャッチミスの回数などを記録させる。このようにしてグラウンド上で活動しない生徒は、自然に関心を持ってくる。

また教師は授業のたびに、こうして得られた記録を参考にして選手の欠点を指示し、今後の改善に利用する。結果としては、グラウンド上で活動している生徒は自分の何が調べられているかわからない。だから一生懸命やる。また見学している生徒は、メモすることによって授業の参加者となる。

私たちの学校対抗大会ではドリブルは、一回バウンド・ドリブルしか認められない。ボールを持って前進するには、3歩―1回バウンド・ドリブル―3歩しかない。この方法によって選手はボールを早く離すようになった。この方法はボールの独占を禁止し、他の選手にもボールが回るようにした。この目的とするところは各人をチームの一員として位置づけることにある。というのは学校体育の教師にとって、ハンドボールは非常によい方法ではあるが、スポーツマンを形成するための一つの手段でしかない。生徒各人のスポーツマンシップを養成するには参加している全員が、それぞれすぐれたスポーツマンになるようにしなければならない。

教師が学校で生徒といっしょにプレーするのもいい。また自分が一選手としてプレーし、すぐれたスポーツマンとして残るのもいいことである。しかし自分の学校チームを率いて大会に出たとき、卒業生の多数に囲まれるようになるのもまた非常に有意義なことである。何人かの生徒は卒業後も何年かの間は自分のやっていたスポーツを続けるだろう。しかしほとんどの者は何年かたつと離れた観客席での観衆となる。そのさい、対戦ごとに相変わらず最大の満足を感じているような積極的な観衆となる。このように育てるのが教師の仕事である。

以下にこれから示す練習方法は、私たちの長年の研修の成果を示すものである。それはわれわれ自身で作り上げたものであるが、当初は外国の優秀なコーチから得たもの。最初ハンドボールを導入したのはビム・レジュン氏であり、その後約20年間にわたりフランスのジュエル・ブルリ氏が練習の第一歩を指導した。続いてルネ・リキャール氏がそれを引き継ぎ、ベルギーのハンドボールの発展に大きな役割を演じた。さらにドイツのケンパ氏をあげねばならない。

技術入門

シュート

ステップシュート

腰と肩との間が全体として安定するよう努力すること。進路を変えてシュートしてはならない。ダンスのようなステップはいけない。最初はシュートの前の歩数を多くとってはいけない。

A、低い位置へのシュート

（1） 腰掛けをひっくり返して、ゴールに脚を立てかける。選手は1人ずつ前進して腰掛けにボールをぶっつける。（肩からのシュート練習）。

（2） 1と同じことを走って行なう（腰掛けに当たり、成功した数を数える）。

（3） 腰掛け4個を使い、4人で2と同じことを行なう—速さの競争をさせる。

（4） 腰掛け1個をひっくり返して壁に寄せる。1、2、3と同じことを、ボールをバウンドさせ行なう。ボールは腰掛けの前方でバウンドさせること。

（5） 腰掛けをゴールの前に置き、4と同じことを行なう。

（6） 石灰で40センチのゾーンを引き、そこへ前記のボールのぶっつける動作を繰り返す。特に5の動作をゴールのコーナーに指定して行なう。正確さの練習。

（7） ボールを1個ずつ持たせ、ドリブルしてシュートする。

（8） ゴールから20センチのところからスタートして、コーチからパスを受け3歩、ワンドリブル、3歩でシュート。シュートしたボールを拾って元へ戻る。

（9） 左手でドリブルして7、8と同じことを行なう。シュートは右手。

（10） 左手のシュートにより、前記と同じを繰り返す。

（11） 左手のドリブルから右手のドリブルに変えてシュート。

B、ゴール上部へのシュート

壁面にゴールを書き、その上部40センチを区切る線を引く。ステップシュートと同じ方法でその区画へのシュート練習を行なう。

C、ジャンプシュート

（1） 走って障害物を飛び越えながらシュートする。障害物として、物干しざお、ベンチ、とび箱二段、四つんばいになった選手などをエリアラインの前方に置く。

（2） 走ってエリアラインの中へジャンプして飛び込みシュートする。

（3） ジャンプをいろいろのステップシュートに組み合わせ、シュートする。

D、ゴールに並行して走りながらのシュート

（1） 2人ずつ一定の距離を置いて横に位置し、前進する。顔は横に向け、相手を見ている。一方が停止すると、他方は前方を見ながら停止した一方にパスする。

（2） 腕をおろし、ゴールに並行に走りながらシュートする。ゴール中央から垂直に引かれた線を越えたときに、どちらかのポストへボールをぶっつける。

アンダー・シュート

（1） 2人ずつ向き合って位置する。前に出した足は立て、後ろへ引いた足を曲げるボールを後ろへ引いた足の外側の地面に置く。手でボーを取り、腰をひねりパスする。手首による強いプッシュができるよう練習する。

（2） 強さを増すように同じ練習をする。

（3） ボールを地面に置かないで同じ練習をする。

（4） 歩幅を小さくして前進し、同じ要領でゴールにシュートする。

（5） 1メートルから1・5メートル離れて手を上げた守備選手が立ち、その前でアンダーシュートをする。

頭上シュート

守備選手の頭上を通過してシュートするため、高くジャンプし、腕も上に伸ばし切って手首でシュートする。少なくともゴールから9メートル以上のところから打たれる。

（1） 3歩助走してジャンプする練習をする。3歩助走ジャンプのリズムに慣れることが大切である。

（2） 進行方向を変え、3歩助走しジャンプする。

（3） 2人ずつ向き合って立つ。腕を上に伸ばした状態でパスをする。ただし腕を1回転してからパスをすることとする。

（4） ボールを持ってゴールに向かって走り、ゴールの上部に（3）のパスの要領でシュートする。

（5） バレーボールのネットを張る。3歩の助走とジャンプによりネットを越えてシュートする。

（6） バレーボールのネットの後ろに選手3人が並んで立ち、腕を上げる。（5）と同じ要領でシュートする、

（7） 次にネットなしで（6）の練習をする。

（8） バレーボールのネットを張るか、腕を上げた選手3人が立つかする。ネットに並行して3歩の助走。ジャンプして90度体を回転し、上を越えるシュートをする。

（9） 腕を上に伸ばした状態で行なったパスの要領を（5）（6）（7）（8）のシュートに行なう。

バックシュート

このシュートを行なう場合は、ボールをじゅうぶんにかぶさっていなければならない。このシュートはたまにしか使わない。

倒れ込みシュート

このシュートは身長の低い選手の得意とするのがいい。倒れ込みになれるため、砂場、マット、芝ふ、体育館の床がいい。

(1) 2人ずつ向かい合い、ボール1個を使う。腰をかがめ、脚を軽く曲げる。次に脚を勢いよく伸ばし、胴をそらせる動作によって前へ倒れ込む。倒れ込む途中で、できるだけおそくボールを離す。前への落下を受け止める。ボールを持つ腕のひじはできるだけ伸ばす。

(2) シュートの方向に走って(1)と同じことを行ない、シュートの強さを増すようにする。

(3) 2つのグループに分ける。1つのグループはゴールラインの後ろに位置し、ボールを拾う。もう一方のグループは各人がボールを持ってエリアラインの周囲に位置し、合い図に従って順次倒れ込みシュートをする。

(4) 3グループに分ける。Aグループはボールを拾う。Bグループはエリアラインに沿って位置する。Cグループはフリースロー・ラインに沿って位置する。Aグループの選手はBグループのエリアラインに位置した選手にバウンドパスをする。Bの選手はそのパスを受けて倒れ込みシュートをする。

(5) 4と同じ方法で、バックシュートでの倒れ込み練習をする。バックシュートの過程で、まず後ろ向きに倒れ始め、ボールが手を離れたときにはゴールに面し、前向きに落ち込むことになる。

(6) 2人ずつ対面し、ボール1個。腕を折り曲げたパスを行なう。次に右手を左肩の上部に持っていってパスをするようにする。

(7) 6と同じパスを腰を浮かせて行なう。まず右へステップを1歩踏み出し右へおびき寄せるフェイント。次に左へ倒れ込みながらボールを投げる。

(8) 跳び箱二段を置き、それに対し左へ斜めに落下する位置につく。左へ倒れ込みながらシュート。左手でささえる。

(9) 7のパスと同じ要領で腰を浮かせ、横へ倒れ込みながらシュートする。

(10) 同じシュートを相手選手を前に置いて行なう。ただし腰による右へのフェイントを必ず行なうこと。

(11) 右サイドでプレーしている右利き選手が中央部へ左に倒れ込みシュートをするとき、右手は頭の上または左肩の上にくるようにする。

ドリブル

(1) 円状に並ぶ。前進して1のステップで手をたたく。ステップは左足からスタートして1、4、3、2、1、4、3、2ととる。左手を上に向け、右手で上からはたくようにして手をたたく。

(2) 左足が地面に着くごとに1の要領で手をたたく。

(3) 1人、1回ずつボールを持って2の要領で右手でボールを地面にバウンドさせる。

(4) 3人のグループでボール1個。2人と1人に分かれ、10メートルから20メートル離れて位置する。2人のうち、1人がドリブルで10～20メートル離れた選手の方へ進む。2～3メートルのところでボールを渡し、位置を交代する。

(5) 4と同じことを速度を増して行なう。ただし頭はつねに起こし、ボールは腰から上にバウンドさせないこととする。

(6) 5人にボール2個。3人と2人に分かれ、両グループ1個ずつボールを持つ。4の要領で両方から同時にドリブルでスタート。途中で交差するとき、両手で腰から腰へパス。頭は真直ぐ立てておくこと。

(7) リレー競走のいろいろの型を違ったドリブルに活用する。

(8) 1から7の練習を左手で行なう。

(9) 1、3、2、1、3、2……とステップを数えながら1で手を変えてドリブル。7人制ではドリブルは1回しかできない。しかし試合の状況によっては、連続してドリブルを行なう必要がある場合もあるが、そのとき自然に反射的に右手と左手を交互に使うドリブルに入れるよう練習しておく。1から練習をこのドリブルで行なう。

(10) 2人ずつ組み、1人が右手でドリブル。もう1人はボールを取ろうとし、ドリブル選手はからだでボールをかばうようにしてキープする。

学校ではいろいろなスポーツを教えているので、バスケットボールのドリブルについてもじゅうぶん細かい技術までマスターされていることは少ない。ハンドボールのドリブル練習のときに、あらためてバスケットボールのドリブル技術を取り入れて練習するようにすすめる。というのは7人制ハンドボールではゴールに対する位置によって、前腕と手だけによってシュートしなければならない場合がある。シュートで終わるバスケットボールのドリブル練習をしておけば、横のバーを超えるようなシュートになることが少なくなる。

ルーマニア、ソ連不参加 ことしの男子ヨーロッパ・カップ

最近明らかにされたところによると、ソ連、ルーマニアは各国男子チャンピオンチームによる第7回ヨーロッパ・カップに出場しない。理由は期日までに申し込まなかったため。前回大会はルーマニアのディナモ・ブカレストが優勝している。

フランスハンドボール協会はこの大会の創設者として、国際ハンドボール連盟(IHF)にたいし、すでに1回戦の抽選のあとではあるが、登録の遅れたこの両国を救い上げ、この大会に参加せようと努力をした。

日本協会だより

新しい規約できる

日本ハンドボール協会は10月9日東京で開いた臨時評議員会で「日本ハンドボール協会規約改正案」を提案し、評議員会はこの改正案を承認した。新しい規約次のとおり。

日本ハンドボール協会規約

第1章　総　則

第1条（名称）
本会は日本ハンドボール協会という。

第2条（事務所）
本会は事務所を東京都渋谷区神南町25番地岸記念体育館内におく。

第3条（組織）
本会は各都道府県及び沖縄においてハンドボール競技を統轄代表する協会で組織する。

第4条（目的）
本会は日本におけるハンドボール競技団体を統轄代表し、ハンドボール競技を振興して国民体育の向上とスポーツ精神の涵養を図ることを目的とする。

第5条（事業）
本会は前条の目的を達成するため事業を行なう。
一、全国的な競技会の開催
二、国際競技会の開催及び代表選手団の派遣
三、競技規則の制定及びその実施
四、競技の技術の指導、研究及び普及に関する事業
五、用具及び施設の研究拡充
六、会誌その他必要な刊行物の発行
七、その他本会の目的達成に必要な事業

第2章　機　関

第6条（機関）
本会には次の機関をおく
一、評議員会
二、理事会
三、常務理事会
四、専門委員会

第7条（評議員会）
1、評議員会は評議員で構成し、本会の最高議決機関として基本方針を定める。
2、評議員会は定期評議員会と臨時評議員会とする。定期評議員会は毎年1回2月中に開催することを原則とし、臨時評議員の5分の1以上の要求があった場合または理事会の議決があった場合開催する。
3、評議員会は過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数の同意を経て決定する。ただし、可否同数の場合は議長がこれを決定する。
4、評議員は文書をもって他の評議員に権限を委任することができる。

第8条（評議員会の権限）
1、評議員会は、本会の会長、副会長、監事を選出する。
2、次の事項は評議員会の議決を得なければならない。
一、規約の変更
二、顧問、参与、理事の委嘱及び日本体育協会への派遣役員の承認
三、収支予算、事業計画及び資金計画
四、収支決算、事業報告
五、その他重要な事項
3、前項1号の議決は第7条第3項の規定にかかわらず評議員の現在数の2分の1以上の同意を得なければならない。

第9条（理事会）
1、理事会は理事で構成し、評議員会の定めた基本方針にもとづいて運営計画を立てるとともにその執行に当たる。
2、理事会は過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数の同意を経て決定する。ただし、可否同数の場合は議長がこれを決定する。

第10条（理事会の権限）
理事会は、第8条第2項に関する案件を審議するほか次の事項を議決する。
一、本規約の施行を確保するための規程の制定
二、理事長及び常務理事の互選
三、本会の運営計画の執行に関すること。

第11条（常務理事会）
常務理事会は理事長及び常務理事で構成し、常時本会の運営に当たる。

第12条（常務理事会の権限）
1、常務理事会は理事会、評議員会に提出する案件の作成に当たる。
2、常務理事会は第10条三号の規定にかかわらず本会運営の緊急事項に関し、処理することができる。ただし、処理後の初めての理事会で承認を得なければならない。

第13条（専門委員会）
専門委員会は担当理事及び専門委員で構成し、専門事項に関し、常務理事会に提出する案件を作成する。

第3章　役　員

第14条（役員）
本会には次の役員を置く。
一、評議員　若干名
二、会長　1名
三、副会長　若干名
四、顧問　若干名
五、参与　若干名
六、理事長　1名
七、常務理事　10名以内
八、理事　26名以内
ただし、会長、副会長を含まず
九、監事　3名
一〇、専門委員　若干名
一一、海外駐在代表　若干名
2、役員の任期は2年間とし、再任をさまたげない。

第15条（評議員）
1、評議員は各都道府県及び沖縄協会の会長、全日本実業団ハンドボール連盟会長、全日本学生ハンドボール連盟会長および全国高等学校体育連盟ハンドボール部長がこれに当たる。
2、評議員は、副会長または副部長（高体連）を評議員会に代理出席せしめることができる。ただし本会役員をこれに当てることはできない。

第16条（会長および副会長）
1、会長は本会を代表し、会務を総理するとともに理事会、評議員会を招集し、その議長となる。
2、副会長は会長を補佐し、会長が事故あるときはその職務を代行する。
3、会長、副会長は理事となる。

第17条（理事）

1、理事は次の団体で推薦し、評議員会の議決を経て会長が委嘱する。

一、第26条の規定による地区連盟　10名

二、第25条の規定による全国連盟　6名

2、会長は前項のほか、前項第1号にかかげる理事数を越えない範囲で評議員会の承認を得て委嘱することができる。

3、理事は、理事会を構成するとともに会長の指示を受けて会務の処理にあたる。

4、常務理事は会務を常時分掌処理する。

5、理事長は会務の処理を統括する。

第18条（監事）

監事は毎年度本会の決算を監査し、その結果および意見を評議員会に報告するものとする。

第19条（専門委員および海外駐在代表）

専門委員および海外駐在代表は常務理事会が推薦して会長が委嘱するものとする。

第20条（顧問及び参与）

1、顧問及び参与は本会の功労者または協力者の中から理事会が推薦し、評議員会の承認を経て会長が委嘱する。

2、顧問及び参与は評議員会に出席して意見を述べることができる。

第4章　会　計

第21条（経費）

本会の経費は次のものをもって当てる。

一、各都道府県及び沖縄協会の加盟金

二、登録金

三、大会参加料

四、用具検定料

五、審判審査料

六、競技規則頒布料

七、補助金

八、寄付金

九、その他の収入

第22条（特別会計）

本会が行なう特別な事業については特別会計とすることができる。

第23条（保管）

本会の資産は会長が保管する。

第24条（会計年度）

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日で終わる。

第5章　加盟団体

第25条（全国連盟）

本会は、全日本実業団ハンドボール連盟、全日本学生ハンドボール連盟および全国高等学校体育連盟ハンドボール部など全国的ハンドボール団体について評議員会の議決を経て加盟団体とすることができる。

第26条（地区連盟）

本会は各都道府県協会及び沖縄協会の地方的運営を円滑にするため評議員会の議決を経て、地方別に地区連盟を置くことができる。

第6章　雑　則

第27条（職員）

本会は事務処理のため職員を置くことができる。

附　則

1、本規約は昭和40年11月9日から実施に移すものとする。

（注）ただし、役員に関しては適用期日を検討中である。

（了）

西ドイツチームを招待
ルーマニア遠征は交渉中

国際関係事業計画案

日本協会は1966年度（昭和41年）の国際関係事業計画案を次のように決めた。当初のチェコチーム招待を西ドイツチームに変更して、目下交渉中。

1. 西ドイツ選手団招待（交渉中）

1、時期　1966年4月ないし7月の約3週間ハンブルグ・チーム（ドイツ代表にしてもらう）

2、選手団男子および女子チーム（ナショナルAまたはB、あるいは優秀クラブチーム）35人以下

3、試合　男、女各10試合、計20試合

4、費用　航空旅費分担10、000ドル、協会負担＝滞在費、国内旅費、選手おこずかい、レセプション、送迎バス、

5、引き受けチーム分担金1試合約40万円

2. ルーマニアへ派遣（交渉中）

1、時期　1966年5月～6月の3週間

2、選手団　男子ナショナルチーム候補者18人

3、費用　モスクワまで往復旅費（横浜（船）→ナホトカ（汽車）→ハバロフスク（飛行機）→モスクワ）1人約15万円、

4、派遣選手分担金　1人約10万円

3. 中国招待（決定）

1、時期　1966年9月～10月の3週間

2、選手団、試合　男子チーム18人、10試合

3、費用　協会負担＝滞在費、国内旅費、選手こずかい、レセプション、バスその他——約250万円

4、引き受けチーム分担金　1試合約25万円

4. 第6回男子7人制世界選手権大会（決定）

1、時期、場所　1967年1月、スウェーデン

2、選手団　男子ナショナルチーム20人（選手16、役員4）

3、費用　往復航空旅費1人約46万円

4、派遣選手分担金　1人約30万円

参　考

1、合宿費は原則として協会で負担する。

2、招待引き受けチームは上記分担金のほか選手団の1泊3食、送迎バスの費用を負担する。

3、引き受けチーム分担金および派遣選手分担金の額は昭和41年度予算成立後確定することとする。

4、上記の金額は、一応のめどである。

協会規約の改正とその意義

日本協会
常務理事

加藤祐策

一、はじめに

新らしい日本ハンドボール協会規約が11月9日から発効した。今後の協会運営はいっさいこの新規約によって行なわれる。時あたかも、1972年のオリンピックにハンドボール競技の復活が報ぜられ、われわれハンドボール愛好者一同の頭上に高々の乙旗が掲げられたときである。

日本のハンドボール界が、その力と技術を結集して7年後にオリンピックの栄光を手にすることができるか否かは、まさにこの新規約をじゅうぶんに生かした関係者の精神いかんにかかっている。新規約は日本ハンドボール協会の円滑な運営を保証し、新しく、すくすく伸びる若い力をじゅうぶん発揮させるものである。どうしてこれをハンドボール愛好者の一人一人が、じゅうぶんな理解と活用を考えずにいられようか。中央、地方の役員諸氏はもとより、チームの指導者も大いに研究して、今後の協会運営やチームの育成に協力していただきたい。また現役プレーヤーの諸君。特に学生諸君。規約をOBや役員だけの問題にしてはいけない。日本人にとって日本国憲法が不可欠のものであることを知っているように、日本ハンドボール協会規約が日本のハンドボール愛好者全員にとって不可欠なものであることを認識してもらいたい。

二、なぜ改正が必要となったか

理由は簡単である。日本のハンドボール界も30年の歴史を持っている。旧規約では協会の発展をじゅうぶんに導びくことが困難になったからである。ではその原因はなにか。それは日本のハンドボール界が非常に大型化し、複雑化し、国際化したからである。本年度中には、全国46都道府県と沖縄が日本ハンドボール協会に加盟する。高等学校以上の登録チームは千をすでに越え、ハンドボール競技を楽しむ人口は十万人以上だと考えられている。

またハンドボール界といえば、学連と高体連だけというのが従来の通り相場であった。学連は関東、関西にあったが、卒業後におけるハンドボール界での活躍は体育関係教育者がそのほとんどというありさま。一般社会に出たOBは、母校の試合見物以上に深い関係をもつ人はきわめて少なかった。しかし最近のハンドボール界は、ようやくその姿を脱皮しようとしている。学連も東北、東海、中国、九州とその基盤をひろげた。一方、社会人としても実業団チームがはなばなしく登場するにおよんで、従来の単細胞から複雑な高等動物への道を歩み始めたのである。そして最後に決定的な体質改善を余儀なくさせたのはオリンピック種目からの脱落（それにもかかわらずというか、あるいはそれ故にというか）と、国際性を急速に深めなければならないという事情であった。

ところでそうした大型化、複雑化、国際化の傾向が、なぜ規約の改正を必要とするのかということが問題である。本来、目的をもった団体が事業を行なうためには、組織と、その組織を運営する人間と資金が必要だといわれる。ところがその団体が小さければ、めんどうな組織や規約によるよりも、簡単な話し合いや習慣で事を運ぶ方が現実的な場合がある。日本ハンドボール協会の過去がそれであった。しかし団体が大きくなれば逐一話し合いというわけにはいかず、それに代わってどんな場合でも、どんな人に対しても公平な取り扱いができる規則類がどうしても必要になるのである。また団体の構成員が複雑になり事業が複雑になれば、その面からも、組織や

規約による運営が必要になってくる。そしてそのための人材は過去の貢献実績によるのでなくて、適材適所の人物を公正に求めないと、決してうまく事が運ばなくなる。こうしたことは国際化の問題で決定的に重要となる。国際間の取り決めということになれば、それは一種の外交渉であって、長期間の粘り強い接衝と事が結ばれた後にその約束を完全に履行するための誠実な事業計画、それを裏付ける資金計画が必要なのである。

以上のように大型化し、複雑化し、国際化した日本ハンドボール協会。これを強力に、しかも円滑に運営するための規約は従来の規約を部分的に改正するのではなくて、新しいものにしなければいけない。それが今回の改正だといってよいのではないだろうか。

三、どのようにして改められたか

昭和39年度の評議員会は、規約の全面改正を決め、新規約的案の作成期限を40年の秋までとした。この決定に基づいて理事会は、特にそのための専門委員会を置くこと決めた。旧規約にしたがって評議員、理事、監事の中から、協会本部を代表する者、地方を代表する者、学連、高体連を代表する者等を網羅したメンバー12氏を理事長が委嘱した。この専門委員会は委員から提出された四つの試案と、一つの意見書を、本年の6月2日、19日、7月17日の3日間にわたって論議をつくり、8月15日に専門委員会案を作った。この案は紙面の関係でここに紹介することはできないが、その後の理事会、評議員会でそのほとんどが受け入れられ、新規約となった。

それでは新規約の審議過程で特に問題となったのはどんな点であろうか。主なるものを個条書きにすれば次のとおりである。

（1）　旧規約の取り扱いをどうするか。

（2）　議決機関、執行機関などの取り扱いをどうするか。

（3）　役員の員数と選出母体をどうするか。

（4）　組織として学連、高体連をどのように扱うか。

以上4点を順次取りあげてみよう。第一の旧規約の取り扱いであるが、混乱をできるだけ避けるという意味において、形式その他旧規約で生かせるものは生かすこととした。第二の機関については、評議員会の最高議決機関は問題ないとして、執行機関は理事会というような集合体でなく、会長、理事長、審判部長といった執行責任者とすべきであるという強い意見と、理事会と常務理事会の区別および専門委員会の性格が議論の中心になった。これらは旧規約のいわば欠点をついたもので、執行責任の所在を明らかにすること、理事会に会議成立のための定数がなかったため、とにかく常務理事会万能主義に落ち込んで、地方理事との解離を生じていたことの改善、また専門委員会があたかも、執行機関の先端であるかのごとき従来の運用の是正などがそれであった。結果は理事会成立のための定数を設けただけにとどまり、決定的な規約の改造にはならなかった。しかし将来への展望としては理事会の執行面における重要性が確立したので、地方と中央との解離という最も基本的な欠点は修正されるものと思う。他の点については、後述の役員面の運用で、なんとか、カバーできるものとして旧規約を踏襲した。

第三は役員である。評議員や専門委員は役員から除外して、執行責任者と名誉職としての顧問、参与だけにせよとか、評議員会や理事会の代理出席の問題なども議論になったが、やはり重要点は理事の数とその選出母体ということになった。結局、会長の推薦する理事は地方選出理事を上回ってはいけないし、地方選手理事についてはその根拠をはっきりと規約のなかに書くことにした。これら理事の数は従来の四十数人から一挙に二十六人に減員することになった。これからの理事はいやが上にも少数精鋭とならざるをえない。機関のところでも述べたが、責任をもって理事の職を遂行してもらえる人材の就任を待つわけである。

第四は組織である。日本ハンボール協会の構成員は各県協会であるとはっきり規約化した。従来のように「各県支部をもって」というような出先機関的な、実体をまったく無視した表現はやめた。そのさい問題となったのは、個条書にしたとおり、学連などの扱いであった。全国を県別でなく、横割りにした。これらの団体は歴史的にみれば最も古い。こうした団体の意向なり、実行力を無視しては日本ハンドボール協会の発展はありえないということである。評議員、理事会のメンバーに、これらの団体の代表を加えることにしたのである。

四、むすび

さて、以上規約改正の必要性と改正過程、そしてこの二つから当然導びかれる新規約の意義ないし新規約に寄せる期待を簡単ではあったが述べたつもりである。最初にも述べたとおりこの規約を生かすか殺すかが、日本ハンドボール協会の未来を決定するといっても過言でない。

どうか、新規約のレールの上を日本のハンドボール界が力強くばく進することを念じてもまない。

雲助・無言の欧州旅行

球界パトロール・熊本

熊本ハンドボール界の名物男、愛称"雲助さん"こと白取義輝さん(熊本県水俣市教育委員会)は、本誌25号(8月号)でご紹介したように、カヌーの監督として7月30日横浜から船でシベリア経由ルーマニアへ行き、8月28日帰国した。そこで白取さんに欧州旅行の思い出を書いてもらった。

―○―

船と汽車と飛行機とバス。地上のありとあらゆる交流機関を利用してのヨーロッパ遠征。第三者の人が見たらうらやましがるような旅だ。ところがこれがそうでなかった。横浜港からソ連船に乗ったとたん、全くの無言の旅。どこを向いても外人ばかり。日本語をしゃべるときがない。おしの学校にはいったような全く味気ない旅。人間の意志の表現法として、しゃべることが大事なものであるかを初めて知った。東京オリンピックが世界の人たちに最高の喜びを与えたためか、私たちに対する態度も非常に好感に満ちたもの。ブレザーコートに光る"日の丸"。この威力はすごい。すべての外人が握手を求める。私も握手だけは一人前にやったが、彼らの握力の強いのには驚いた。飛び上がるほど痛い。このわずかな握手でさえ、力の差をまざまざと見せつけられた。基礎体力がいかに重要であるかを再認識した。ハンドボールでも握力の強い握手は大成している。ボールを完全に握ること――これはハンドボールの初歩であることはいうまでもない。私は技術を覚える以前に、ボールを完全に握り、後ろから人に押されてもボールを落とすことのないようなハンドボール選手をつくってみたいと思う。

話は脱線したけれど、言葉は通じなくてもスポーツの話になるとこれがよく通じてしまう。カヌーの専門用語をいえば、「それはこうやるんだ」、「それはこういうことだ」とジェスチャーよろしく教えてくれる。それで相手は"日本人に教えた"という優越感を持っているのだろう。得意になって教える。こちらは日本語で「アリガトウ」と堂々とお礼を言う。相手は笑う。これでいいのだ。とにかく手ぶり、足ぶりしてなんとか一カ月の遠征を終わった。東欧諸国の人たちは日本人に対して好感を持っていることはうれしかった。とくにルーマニアはそうだった。残念なことに、私はハンドボールの世界チャンピオンであるルーマニアで、いちどもハンドボールの試合も見なかった。カヌーの方に気をとられ、その時間が全くなかったのは、なんとしても心残りというほかはない。

沖縄へ2回目の遠征(12月)

高校男女、5試合を予定

沖縄へ日本の高校チームが遠征するのは今春4月に続き2回目。

日本協会、高体選ハンドボール部は、このほど、12月25日から来年1月4日まで沖縄に男女選抜チームを派遣することになり、そのメンバーを次のように決めた。

第2回沖縄遠征高校選手団

団長　村山　寛(岡山倉敷青陵高校長)
監督　嶋田　新太郎(富山小杉高監督)
　　　小袋　是郎(福岡田川工高監督)
コーチ　砂長　誠(茨城水海道二高監督)
　　　中出　盛雄(大阪枚方高監督)
マネジャー　岡前　農春(東京第五商高監督)
総務・審判員　未定

〔男子〕

GK　高橋　健夫(麻生)
　　八沢　久(清水商)
　　南　一夫(佐野工)
FP　池田　正明(仙台一)
　　関　勝之(氷見)
　　雨宮　孝(塩山商)
　　金子　進(浦和市立)
　　鈴木　博隆(中京商)
　　有本　充(名城大付)
　　堤本　知秀(和歌山商)
　　井上　亮一(明石)
　　繼中　憲二(岩国工)
　　塩崎　信治(新居浜工)
　　榊　崇(大分商)
　　白川　則雄(函館有斗)

〔女子〕

GK　中下　伊津子(山陽女)
　　小川　恵子(栃木女)
FP　熊谷　佑子(盛岡二)
　　定塚　隆子(高岡女)
　　小島　晴美(名女商)
　　山口　レイ子(明善)
　　垂水　秀子(菊池農)
　　小林　八重子(静岡城北)
　　中司　千草(梅花学園)
　　古川　美重子(豊中)
　　浅井　喜美子(山陽女)
　　黒木　英美子(新居浜西)
　　細川　千枝子(栃木女)
　　山口　みさ子(笠間)
　　沢田　順子(室蘭商)

芝浦工大、15回目の優勝

関東学生秋季リーグ

関東学生ハンドボール秋季リーグ戦は10月19日駒沢第二球技場で開幕した。2連勝を目ざす立大と、春の雪辱を期す芝浦工大との間で優勝が争われたすえ、芝浦工大が見事15回目の優勝をとげた。

〔男子一部〕

▽10月19日

立　大 23（14－6、9－3）9 慶　大

教　大 32（15－9、17－4）13 茨城大

芝浦工大 21（13－9、8－6）15 明　大

中　大 18（6－5、12－9）14 日体大

▽23日

芝浦工大 22（9－6、13－6）12 日体大

立　大 27（10－9、17－6）15 茨城大

中　大 17（11－9、6－7）16 明　大

慶　大 18（8－7、10－8）15 教　大

▽24日

中　大 25（13－12、12－10）22 茨城大

芝浦工大 23（12－9、11－2）11 慶　大

日体大 22（10－8、12－3）11 教　大

▽30日

立　大 26（17－4、9－6）10 明　大

明　大 24（15－10、9－7）17 教　大

慶　大 21（8－8、13－8）16 中　大

立　大 18（13－7、5－4）11 日体大

芝浦工大 32（13－8、19－5）13 茨城大

▽11月3日

中　大 17（11－7、6－9）16 教　大

日体大 28（18－8、10－11）19 茨城大

慶　大 21（11－10、10－6）16 明　大

芝浦工大 13（7－7、6－4）11 立　大

11月8日

立教 13（6－6、7－5）11 中大

茨城 19（9－6、10－5）17 明大

芝工 22（14－6、8－5）11 教育

日体 20（13－10、7－3）13 慶応

▽11月5日

茨城大 23（7－13、16－5）18 慶　大

明　大 16（11－10、5－3）13 日体大

芝浦工大 18（7－5、11－7）12 中　大

立　大 18（10－6、8－7）13 教　大

▽二部順位　①早大5勝1敗①法大5勝1敗③日大3勝3敗③順天堂大3勝3敗③防衛大3勝3敗⑥東大2勝4敗⑦東京学芸大7敗

二部一位決定戦

早　大 15（13－3、2－2）5 法　大

〔注〕男子三部、女子の成績は次号に掲載します。ご了承ください。

◇関東学生秋季リーグ入れ替え戦（11月14日、駒沢体育館）

▽一、二部入れ替え戦

教　大（一部）24（14－7、10－8）15 早　大（二部）

▽二、三部入れ替え戦

武蔵工大（三部）18（2－1、3－2…6－6、7－7）16 学芸大（二部）

一　部	芝	立	中	日	慶	明	茨	教	勝	負	分
1.芝浦工大	×	○	○	○	○	○	○	○	7	0	0
2.立　大	●	×	○	○	○	○	○	○	6	1	0
3.中　大	●	●	×	○	●	○	○	○	4	3	0
4.日 体 大	●	●	●	×	○	●	○	○	3	4	0
4.慶　大	●	●	○	●	×	○	●	○	3	4	0
6.明　大	●	●	●	○	●	×	●	○	2	5	0
6.茨 城 大	●	●	●	●	○	○	×	●	2	5	0
8.教　大	●	●	●	●	●	●	○	×	1	6	0

芝浦工大10連勝

◇東日本学生選手権大会（11月14日・駒沢体育館）

▽準決勝

中京大（東海）35（21－8、14－3）11 金沢美術工芸大（北信越）

芝浦工大（関東）40（20－9、20－3）12 東北学院大（東北・北海道）

▽決勝

芝浦工大 30（18－7、12－6）13 中京大

芝浦工大の10連勝。

芝浦工大5連勝

◇第18回全日本学生王座決定戦（11月23日・駒沢体育館）

芝浦工大 27（9－9、18－9）18 同志社大

芝浦工大の5連勝（通算8度目）

大崎電気が初優勝

女子は日体大優勝

◇第3回東京都選手権大会（11月18－21日・東京体育館）

▽男子決勝

大崎電気 15（10－7、5－5）12 全立大

▽女子リーグ順位　①日体大②東京重機③東女体大④日女体大

（くわしい記録は次号）

連載 第19回

ハンドボール球史

～関東学生リーグ始まる～

関西学生リーグは戦後2年間の諸活動（前号参照）を経験したあと、昭和23年春季に発足したわけだが、複雑なのはその構成である。

当時の関西学生界は大学チームのほか、多くの専門学校と師範学校とがハンドボール活動を行なっており、実力も高く、そのうえ旧制高校も健在であった。私の手元にある資料には「関西学生リーグ」と書かれているものもあるし、「西日本学生リーグ」として学生対旧制高校や旧制高校対専門学校の試合記録が残されているものもある。二者がともに存在していたものか、二者に同時加盟していた学校があったのか、それとも二者同一の組織であったのかよくわからない。

どのグループを「関西学生リーグ」とするか整理に苦しむわけだが、関学、大阪歯大、大阪医大、大阪理工科大、京大、立命館大、神戸経済大、関大の8校によって構成されたと判断するのが順当のようである。8校以外の大阪第二師範、和歌山経専、大阪青師、大阪経済専門などは別のグループを組織していたものとも思えるが、その最終成績（昭和23年6月7日付・朝日）には大阪歯大の名が見える。なんとも複雑な話だ。

ともあれ、前掲8校による記念すべき「関西学生春季リーグ」の成績は次のようなものであった。

▼昭和23年春季

関　学	7－1	大阪理大
大阪医大	5－4	大阪歯大
立命館大	5－2	京　大
神戸経大	3－2	関　大
関　学	15－2	関　大
大阪理大	3（分）3	大阪歯大
京　大	記録不明	神戸経大
大阪医大	記録不明	立命館大
関　学	記録不明	京　大
大阪歯大	記録不明	関　大
関　学	記録不明	大阪医大
大阪歯大	記録不明	京　大
大阪理大	引き分け（記録不明）	神戸経大
立命館大	記録不明	関　大
関　学	9－2	立命館大
大阪歯大	13－3	神戸経大
京　大	7－3	関　大
大阪医大	1（分）1	大阪理大
関　学	記録不明	神戸経大
京　大	3－1	大阪医大
大阪歯大	4－1	立命館大
大阪理大	9－1	関　大
大阪理大	4－2	立命館大
大阪医大	記録不明	神戸経大
大阪医大	記録不明	関　大
大阪理大	記録不明	京　大
立命館大	3－2	神戸経大
関　学	10－3	大阪歯大

【順位】①関学7戦全勝②大阪歯大・大阪医大4勝2敗1分④大阪理工科大3勝2敗2分⑤京大・立命館大3勝4敗⑦神戸経済大2勝4敗1分⑧関大7敗

秋季から一・二部制？

秋季リーグ戦は23年10月中旬に開幕したが、その構成は春とはかなり違っている。これは増大というよりも、前述した別派との合体とみた方がよいかもしれない。ちなみに新加盟は大阪第二師範、大阪工専、大阪青師、大阪経専、大阪機工の5校で、前季2位の大阪医大が姿している。

ところで、このシーズンも各校と旧制高校との間に交流が行なわれているのは注目される。旧制高校は部活動を行なっていても年一回の「インター・ハイ」しか腕をふるう機会がなく、シーズンになると大学や高専と試合を行なっていたものであろう。余談になるが、旧制高校による「インター・ハイ」は昭和22、23年に京都（京大農学部球技場）で開かれている。その記録を収録する機会は、今号をおいてないと思うので主要成績をまとめておこう。

▼第1回全国高校（旧制）大会
（昭和22年7月23日～25日）

▽準決勝

大阪高　9－3　水戸高

甲南高　8－0　浪速高

▽決勝

大阪高　11－1　甲南高

▼第2回大会（昭和23年7月29日～30日）

▽準決勝

大阪高	6—3	甲南高
浪速高	4—3	四　高

▽決　勝

大阪高	5—4	浪速高

このうち関西諸校と交歓していたのは大阪高、浪速高が主であった。

さて——秋季リーグを前に各校を刺激したのは、リーグ戦後に関東の優勝校と「学生王座」をかけるビッグ・エベントが行なわれるというニュースであった。東西の激突は、前年までは国体の一部門として行なわれてきたのだが、関西学連の発足によって社会人のスポーツ祭典である国体から独立したのは当然の結果といえたが、それだけに緊張を呼んだのも事実のようだ。秋季リーグ（23年10月）は、春以上にその構成面において不明確な点が多い。最大の疑点は、一、二部制を布いていたかどうかである。前述のように、一挙に5校が参加することになったため、日程上からも二部制は当然採用しなければならない処置であろう。

しかし加盟校をどのような方法で一・二部に分けたか不明であるし、手元の資料では二部になっている学校が一部校と対戦して、そのスコアを残しているのも釈然としない。全12校による対抗戦のすえ上位6校をAクラスという意味で一部と称し、Bクラスを二部と呼んだ。正規の一・二部制は昭和24年春季からではなかったかという声もある。「朝日運動年鑑24年度版」（163ページ）を見ると、そうしたニューアンスにも受けとれるが、事実そうであったどうか。

一説には「関西学生リーグ」と併行して「西日本学生リーグ」が行なわれていたともいわれる。記者のメモに間違いがなければ、23年10月に「西日本学生ハンドボール連盟」という組織が生まれており、関西学連もこれに含まれていたハズである。今回の球史は、とりあえず一・二部制が完全に施行されていたものとして取り扱うが、遺憾ながら記録不明の方が多い。新聞による完全収集は不可能に近い。昭和23年度の関西学生界については、当時の関係者の個人資料以外にたよるものはなさそうである。あらゆるルートから再調査のうえ改めて収録することをお約束しておきたい。

▼昭和23年秋季（一部）

関　学	9—5	大阪二師
大阪歯大	7—1	大阪理大
関　大	記録不明	大阪工専
関　学	記録不明	関　大
大阪理大	1—0	大阪工専
大阪歯大	記録不明	大阪二師
関　学	記録不明	大阪理大
大阪歯大	記録不明	関　大
大阪二師	記録不明	大阪工専
関　学	記録不明	大阪工専
大阪二師	記録不明	関　大
大阪歯大	記録不明	大阪理大
大阪理大	記録不明	関　大
大阪工専	記録不明	大阪二師
関　学	7—6	大阪歯大

【順位】①関学5戦全勝②大阪歯大4勝1敗③大阪理工大・大阪第二師範2勝3敗⑤大阪工専・関大1勝4敗

【二部順位】①神戸経済大②京大・立命館大・大阪経専⑤大阪青師

初の学生王決座定戦

リーグ戦終了後、約束どおり、関東側の優勝校文理大（現教大）を迎えて「第1回東西学生王座決定戦」が12月19日西宮球技場で開かれている。そして王座戦の前後に「第1回全日本学生選抜東西対抗」（12月21日）として大阪歯大—明大、大阪理工大—早大、関学—明大、京大—慶大、立命館大—明大などのカードが行なわれた。これらはすべて「全日本学生ハンドボール連盟結成記念シリーズ」と名打たれ、いずれも西宮球技場を使用した。

全日本学生連盟の創立は昭和33年「全日本学生選手権」が開始されたときのような印象を与えているが、事実はそれよりも10年前に当時の先輩たちによって組織されている。以後毎年、王座決定戦や東西対抗の運営に当たっていたわけだ。

京大—慶大は、この時を第1回として定期戦を発足させ今日に至っている。王座決定戦などについては、後日その歴史をくわしく追うことにしたい。

関西学生リーグはその発足期においては、組織面、構成面でシーズンごとにかなりの変動が起きていたことがわかる。関東側も高専や師範学校が加盟していた時代があるが、一部校とではかなり実力差があり、あまり〝混乱〟はなかったようだ。関西側は高専や師範のレベルが高く、学制改革などのたびに構成分子の変動が伴ったのはやむをえまい。終戦直後の関西の球界の底辺が、広く強かったという見方もできよう。話は飛ぶが、現在、鈴鹿工専（三重）や金沢高専（石川）が活動を行なっており、地元の学連へ加盟を希望していると聞く。学生界の意向はまだまとまっていないようだが、早急にその態度を決める必要があろう。（以下次号）



実業団連盟だより

全日本実業団ハンドボール連盟
会長　古賀和佐雄

◎実業団連盟登録について

前略毎日秋びよりが続きます。みなさんお変わりなくおすごしのことと存じます。さて私たちの実業団連盟は、2月6日大阪府立体育会館で開かれた連盟設立準備委員会で連盟設立のご承認をいただきました。このあと、大崎電気工業株式会社の渡辺和美社長が世話人となって3月22日大崎電気で開かれた規約審議のための準備会議、さらに10月11日の第1回常務理事会を開き、やっと軌道に乗ってまいりました。以上の会議内容については、そのつど文書でご連絡いたしましたとおりです。ここまで到達できましたことは、全国実業団チームの諸兄のご協力によるものと深く感謝しております。

私たちが主催する第6回全日本実業団選手権大会は大阪府協会にお願いすることになり、そのむね大阪府協会に連絡しました。開催期日41年2月3日から6日まで大阪府立体育会館の予定です。そこで当連盟としては連盟設立についてご賛同をいただいたチームの登録を受ける準備を進めております。3月22日の準備会議で承認していただいた「負担金およびランク制について」の項に基づいて実施することにしました。

すでにご承知のことと思いますが「負担金およびランク制」は次のようなものです。全国の実業チームをA、B、Cの3階級に分け、とりあえずA、Cの両級を採用しました。B級は将来において考え、負担金の多少にかかわらず、どのチームといえども平等であることを確認しております。負担金は一社単位とし、同一会社に男子、女子の2チームがあっても負担金は一社一口とします。A級は年間負担金5万円、C級は年間負担金2,000円と決まっております。

A級は次の12社です。

大洋デパート(熊本)、岡野バルブ(福岡)、宗形製作所(大阪)、田村紡(三重)、愛知紡(愛知)、揖斐川電気(岐阜)、常盤工業(岐阜)、レナウン工業(東京)、大崎電気(埼玉)、東京重機(東京)、三菱鉛筆(山形)、千代田印刷機製造(東京)

以上の12社を除くチームはいずれもC級となっています。3月現在、当連盟でチェックしたチーム数(会社単位)は55です。これによると年額約70円の予算となります。3月の調査で脱落してチーム(会社)があるので早急に調べて全国実業団チームの総数をつかみたいと思っています。この予算は全日本実業団選手権大会および各地方の実業団選手権大会の補助金、当連盟の通信費、印刷費、会議費などに当てることになっています。

チーム登録および負担金の納入は次の要領で行ないます。よろしくお願いします。

一、登録用紙　2通
一、登録しめ切り　11月30日
一、負担金納入　11月30日
一、郵送先　全日本実業団ハンドボール連盟

登録していただかないと、全日本実業団選手権大会に出場できません。

写真は古賀会長



地方だより

▼第1回愛知県女子社会人・学生対抗大会（9月・名古屋）

愛知紡　17—1　中京大
全名古屋社会人選抜　4—3　中京大
愛知紡　9—4　全名古屋社会人選抜

▼昭和40年度名古屋市秋季選手権（11月3日・名古屋）

▽一般男子決勝

大同製鋼　24（13—12、11—6）18　中部電力

▼第2回大阪経大対大阪工大定期戦（9月28日・大阪）

大経大　45（21—9、24—9）18　大工大

大経大2連勝

編集後記

○…プラハで開かれた女子世界選手権大会の対チェコスロバキア戦は惜しく2敗してしまった。ヨーロッパの壁の厚さを見せつけられた。日本チームはベストを尽くしたのだから悔いはない。3年後の世界選手権大会を目ざしてスタートしよう。日本協会も大いにふんどしを締め直して、全国のハンドボーラーに活を入れてほしい。

○…ところがである。幸運はどこからくるかわからない。日本チームが11月7日から西ドイツで開く準決勝リーグに堂々(?)とコマを進めた。というのはソ連が出場権を放棄したからだ。ソ連は第1戦の開催地である西ベルリン市での試合を、西ドイツ国内でやれと注文をつけた。IHFはこれを拒否したため、ソ連は権利を放棄。そこで代わりにオランダが第一候補にあがったが、出場を辞退。そこで日本にこの幸運が転がり込んだ。つまり繰り上げ当選!!。まさに〃タナからぼたモチ〃。日本チームは勇んで西ドイツに乗り込んだというわけ。ことしビッグニュースの横綱である。7位になってほんとうによかった。(ふぐ)

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第二十八号
昭和四十年六[illegible]日 第三種郵便物認可
昭和四十年十一月二十日印刷 昭和四十年十一月二十五日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話大代表(461)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 高嶋洌
定価百三十円 (〒)二十円